

泉大津市文化財調査報告41

泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報25

2007・3

泉大津市教育委員会



泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報25

2007・3

泉大津市教育委員会

例 言

1. 本調査概報は、泉大津市教育委員会が市内に所在する埋蔵文化財包蔵地において、開発行為に先立って実施した発掘調査報告である。
2. 本調査は、国庫補助事業（補助対象経費1,500,000円、国庫補助率50%・市負担率50%）として泉大津市が計画・実施したものである。
3. 本事業は平成18年度事業として、平成18年4月1日に着手し、平成19年3月31日に完了した。
4. 本調査は下記の構成で実施した。

調査主体者	泉大津市教育委員会教育長	中井 譲
事務局	泉大津市教育委員会事務局	生涯学習課
担当者	寒 雄二	
	虎間 麻実	
	竹内 香	
嘱 託	奥野 美和	

5. 遺物整理作業に従事したものは、下記のとおりである。
遺物整理補助員 坪田 恵
遺物整理作業員 野田 由恵・岸本 和美・小山 美智留
6. 遺物整理にあたり、堺市文化財調査事務所から指導・助言・協力を得た。
7. 本書の座標は世界測地系を使用している。
8. 出土品および原図・写真類は、泉大津市教育委員会事務局が保管している。
9. 本書の執筆、編集は奥野が行った。

目 次

第1章 泉大津市と埋蔵文化財調査の状況

1. 泉大津市の位置と環境	1
2. 埋蔵文化財調査の現状	3
表1 試掘確認調査一覧	4

第2章 発掘調査結果

1. 池浦遺跡	2006-09	5
	2006-10	7
2. 豊中遺跡・七ノ坪遺跡	2006-01	8
	2006-06	21
	2006-08	22
	2006-11	24
	2006-03	35
3. 池上曾根遺跡	2006-02	36
	2006-04	37
	2006-05	38
4. 板原遺跡	2006-07	40

表2 遺物観察表	43
----------------	----

参考文献	47
------------	----

発掘調査抄録	48
--------------	----

第1章 泉大津市と埋蔵文化財調査の状況

1. 泉大津市の位置と環境

泉大津市は大阪府南部の泉州地域に位置する。北部・東部は高石市と和泉市、南部は大津川を境として泉北部忠岡町と隣接している。泉州地域東部には、大阪湾に沿って東西に和泉山脈が連なる。その山脈を源として幾多の河川が北に走行し、大阪湾に注ぐ。これらの河川はそれぞれ開析谷、河岸段丘を形成し、その両側には丘陵地形が南北方向に発達している。その丘陵より北側は平坦で狭小な沖積地が形成されているが、泉大津市はこの沖積地上に立地しており、市域の標高は20m未満である。

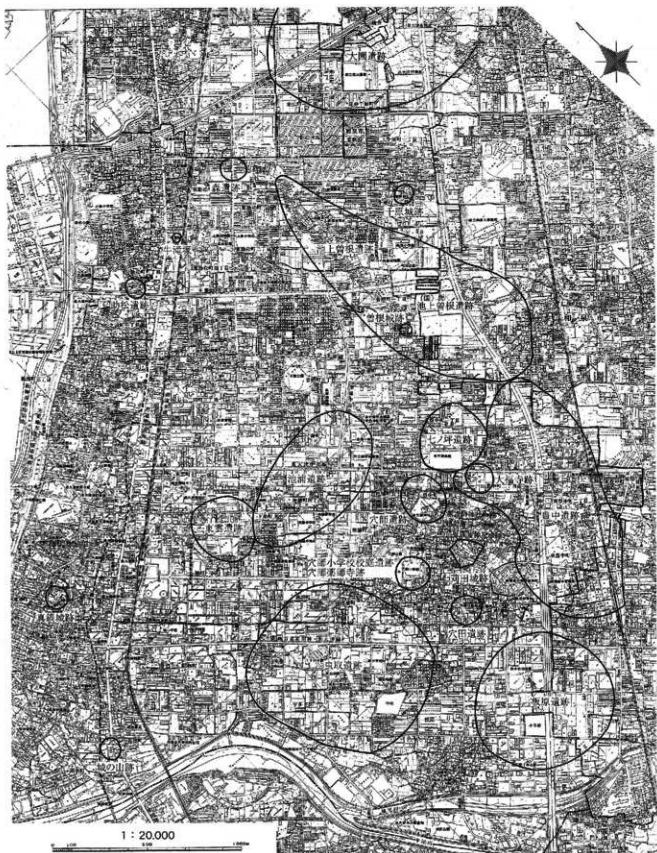
泉大津市は面積12.73km²、うち約3.67km²が公有水面の埋立地である。人口78,453人（平成18年12月1日現在）、東西5.5km、南北4.5kmにわたる都市である。昭和40年頃から開発が進み、現在は市域全域が市街地化されている。市域は大阪湾に面した臨海部の工業地域、南海本線から阪和線にかけての住居地域と商工業地域が混在する地域、国道26号線周辺の商業地域に大きく分けることができる。住居地域には、助松の紀州街道沿いと泉六師神社周辺にそれぞれ風致地区を設けている。近年、臨海部の高層住宅や繊維工場跡地への分譲住宅の建設が進み、市の景観の変化は著しい。いわゆるバブル景気崩壊以後、大規模開発は下火になっているものの、古い民家の取り壊しや木造個人住宅の鉄筋造への立替えなどが進み、町並みにも大きな変化が見られる。



第1図 泉大津市の位置



第2図 市内遠望（市庁舎から豊中遺跡方面を望む）



第3圖 遺跡分布圖

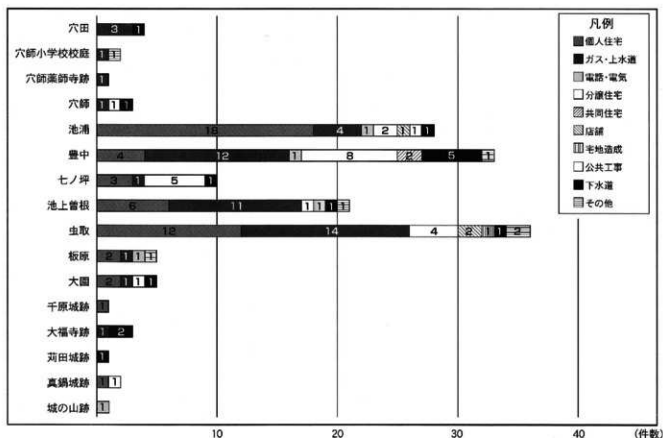
2. 埋蔵文化財調査の現状

本概報は、平成18年1月～12月の期間に埋蔵文化財発掘届の提出があり、そのうち国庫補助事業により発掘調査を実施したものを対象とする。当該期間内の埋蔵文化財発掘届出数は153件、延べ156遺跡で、うち11件を国庫補助事業として発掘調査を行った。

第4図は、遺跡別工事件数の内訳である。遺跡別に届出件数をみると、虫取遺跡、豊中遺跡、池浦遺跡、池上曾根遺跡の順で多い。総届出件数に占める工事内容で最も多いのはガス・上水道(51件)、個人住宅(49件)で約3割、次いで分譲住宅(23件)が約2割を占め、この傾向は例年と同様である。近年の特徴として下水道(15件)の増加が挙げられる。今後も下水道管渠掘削工事の継続が計画されており、試掘確認調査が増加する要因となると考えられる。

本概要で報告する調査は、池浦遺跡2件、豊中遺跡4件、七ノ坪遺跡1件、池上曾根遺跡3件、板原遺跡1件の合計11件である。いずれも建物基礎掘削深度、下水道管渠掘削工事の掘削深度が遺構面を損壊する可能性があるため、着工前の試掘確認調査を行ったものである。

主だった成果としては、豊中遺跡(2006-01)で、中世の掘立柱建物1棟とそれに伴う土器群を確認した。



第4図 遺跡別工事件数内訳

表1 試掘確認調査一覧

○ 池浦遺跡

調査番号	所在地	用途	申請面積(m ²)
2006-09	池浦町4丁目315番1,315番3	鉄骨2階建事務所 鉄骨平屋工場	1103
2006-10	池浦町5丁目212番7	木造2階建個人住宅	157.26

○ 豊中遺跡

調査番号	所在地	用途	申請面積(m ²)
2006-01	北豊中町2丁目988-2の一部	鉄骨3階建個人住宅	186.72
2006-06	東豊中町2丁目964-19	鉄骨4階建共同住宅	145.14
2006-08	北豊中町2丁目14-5	2階建個人住宅	161.95
2006-11	北豊中町2丁目 地内	下水道管渠布設工事	337.4

○ 七ノ坪遺跡

調査番号	所在地	用途	申請面積(m ²)
2006-03	北豊中町1丁目534番の1の一部	鉄骨平屋建店舗	498.09

○ 池上曾根遺跡

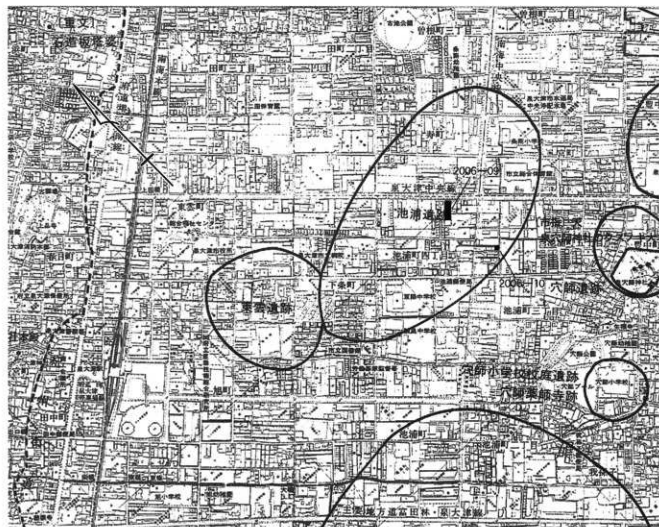
調査番号	所在地	用途	申請面積(m ²)
2006-02	森町2丁目228-9	鉄骨2階建個人住宅	62.94
2006-04	森町2丁目227-25の一部	木造2階建個人住宅	135.19
2006-05	森町2丁目146番	木造2階建個人住宅	192.29

○ 板原遺跡

調査番号	所在地	用途	申請面積(m ²)
2006-07	板原町4丁目1096,1097,1098,1099	倉庫	1515.13

第2章 発掘調査結果

1. 池浦遺跡



第5図 池浦遺跡調査位置図 (1:10000)

池浦遺跡は弥生時代前期中段階に始まる、泉州地域で最も古い弥生集落として知られている。市のほぼ中央部に位置し、遺跡の中心部は市立病院の東側であると推測される。池上曽根遺跡との関わりを考察する上で重要な遺跡であるが、これらの調査成果は昭和40～50年代にかけてのことで、昭和60代以降は、大規模開発がほとんどみられない。これにより、近年の調査は確認調査にとどまっている。平成9年度の調査で朝鮮系の無文土器の体部を検出したが、遺構は認められなかった。今年度は鉄骨平屋工場建設工事と個人住宅建設工事に先立ち、2件の試掘確認調査を実施した。以下、調査地点ごとにその詳細を示す。

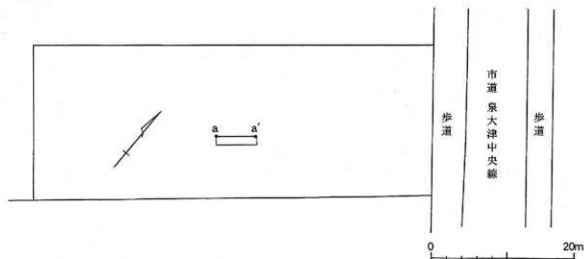
2006-09 (池浦町4丁目315番1,315番3 平成18年11月8日調査)

工場および事務所建設に先立つ調査である。当該地は、池浦遺跡のほぼ中心に位置し東大津中央線に面する。敷地中央部に幅1m、長さ5.3mのトレンチを設定し、重機にて掘削を開始し、その後人力掘削により調査を実施した。

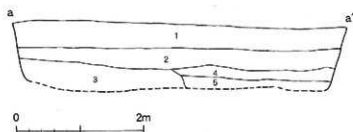
現地表土は旧耕作土にバラスを混ぜ込むように整地された盛土である。その直下に床土である灰褐色土(2層)が約30～40cm堆積する。その下に地山の灰褐色砂礫層(3層)がある。3層はトレンチ中央部付近で

西から東に向かって傾斜しており、黄灰色土(4層)20cm、灰黄褐色土(5層)20cmが堆積する。

第4層から微量の遺物細片を確認したため精査したが、遺構とは認められない。自然流路の痕跡であろうか。建物基礎部分が2層内でおさまることを確認し、写真撮影、断面図・平面図作成をおこない調査終了とした。



第6図 2006-09 地点 トレンチ位置図 (1:500)



1. 盛土
2. 灰褐色土
(しまる、直径5cm~10cmほどの小礫混じる、
酸化鉄多く入る)
3. 灰褐色砂礫層
(直径5cm~10cmの礫と荒い砂の層)
4. 黄灰色土(しまる、遺物少量含む、炭化物少量混じる)
5. 灰黄褐色土(しまる)

第7図 2006-09 地点 断面図 (1:60)



トレンチ全景 (東から)



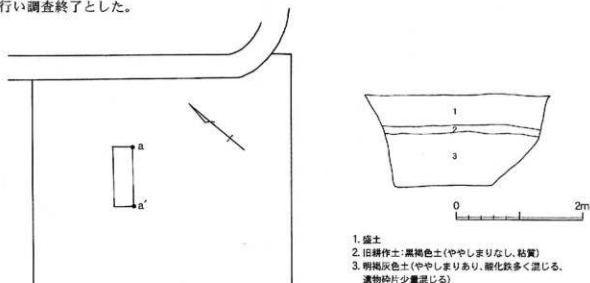
トレンチ北壁断面 (南から)

図版1 2006-09 地点

2006-10 (池浦町5丁目212番7 平成18年11月20日調査)

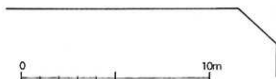
個人住宅建設に先立つ調査である。当該地は池浦遺跡の南端に位置する。敷地中央部に幅1m、長さ3mのトレンチ設定し重機にて掘削を開始し、その後人力により調査を実施した。

現地表面から約50cmは盛土で以下、旧耕作土:黒褐色土(2層)、明褐色灰色土(3層)が堆積する。明褐色灰色土層(3層)は90cmの堆積を確認し、更に深く堆積すると考えられるが、湧水のためそれ以上の調査は困難であった。明褐色灰色土層には須恵器の細片が少量含まれるが、図示できるものはない。土層堆積の状況から、自然流路もしくはため池の跡と考えられるため、工事は遺跡に影響はないと判断し、写真撮影・図面作成を行い調査終了とした。



1. 盛土
2. 旧耕作土:黒褐色土(やしまりなし、粘質)
3. 明褐色灰色土(やしまりあり、酸化鉄多く混じる、遺物碎片少量混じる)

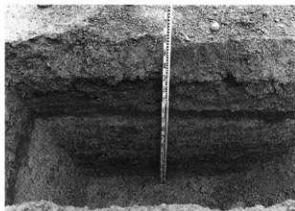
第9図 2006-10 地点 東側壁断面図 (1:60)



第8図 2006-10 地点 トレンチ位置図 (1:200)



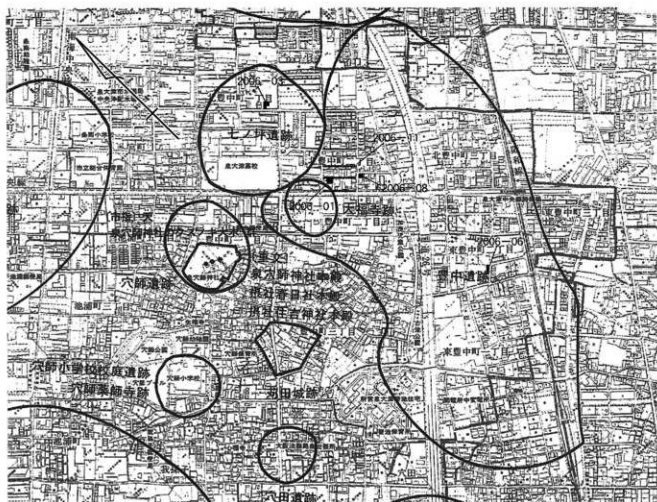
トレンチ全景 (西から)



トレンチ北壁断面 (南から)

図版2 2006-10 地点

2. 豊中遺跡・七ノ坪遺跡



第10図 豊中遺跡・七ノ坪遺跡 調査位置図 (1:10000)

豊中遺跡

遺跡は本市東部に位置し、東西0.6km、南北1.2kmに広がる。遺跡のほぼ中心を国道26号線がはしり、東部から南部は和泉市に広がる。国道26号線付近からは古墳時代、泉大津中央線付近からは平安～中世の集落が確認され、南北方向に流れる水脈上に複数の井戸が造られている。

今年度は、個人住宅工事(2件)、共同住宅工事(1件)、下水道管渠布設工事(1件)に先立ち、計4件の試掘確認調査を実施した。このうち2006-01地点に関しては、市内でも有数の好資料を得られた。以下、調査地点ごとにその詳細を示す。

なお、弥生土器・古式土師器の編年については、西村歩氏(財団法人大阪府文化財調査研究センター1996)の編年を、中世の土器については中世土器研究会(中世土器研究会1995)の編年を参考とした。

2006-01地点 (北豊中町2丁目988-2の一部 平成18年2月1日～9日調査)

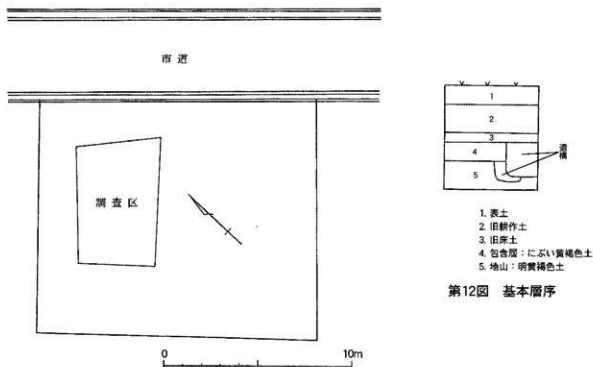
<調査の経緯と経過>

当該地は遺跡の西部に位置し、大福寺跡と隣接する。杭工事を伴う個人住宅工事が予定されたため工事に先立って試掘確認調査を実施したところ、柱穴を確認した。遺構を確認した地点からトレンチの範囲を広げ、調査を実施した。

調査区は住宅建設予定となる、南北6.4m、東西3.9m、面積25㎡である。調査は重機による表土および耕作土の除去の後、人力掘削による遺物包含層掘削作業・遺構検出作業・遺構掘削作業を行ない、土層断面実測・出土遺物実測・写真撮影などの記録作業を行なった。

<基本層序>

表土(1層)・旧耕作土(2層)・旧床土(3層)の下に遺物包含層:にぶい黄褐色土(4層)が約20cm堆積している。その直下に地山:明黄褐色土(5層)がある。遺構は第4層からと第5層から掘り込まれ形成されており、2期に亘ることが確認された



第11図 2006-01 地点 調査位置図 (1:200)

<遺構>

検出した遺構は、掘立柱建物1棟、井戸1基、溝1条、土坑・ピット9基である。遺構は調査区北東部に集中している。調査区の中央部から南西部に向かって大きく落ち込んでおり、河川が存在が推測される。

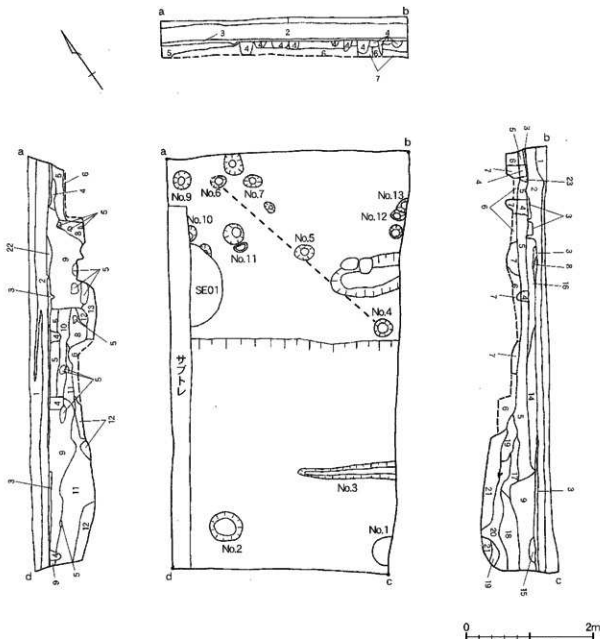
掘立柱建物は調査区北東部に位置する。調査区外に広がり詳細は不明であるが、2間×1間の側柱建物と推定される。棟方向は正北である。掘立柱建物の西側に井戸を確認した。検出のみのため詳細は不明であるが、直径約1.4mと推定される。

<遺物>

遺構出土の遺物(第14図)

ピットのNo.2~13より、瓦器椀3点 瓦器皿20点 その他瓦質製品7点 土師器皿17点 その他土師質製品10点 瓦2点が出上した。いずれも小片であり、図化できたものは1(No.3出土)、2(No.9出土)、3(No.10出土)の3点だけであった。

1は瓦器椀で、内面の一部にヘラミガキが施されているが、外面には認められない。2は内面にかすかに



- | | |
|-----------------------|---------------------------|
| 1. 浅黄色土 | 13. オリーブ褐色砂礫 |
| 2. 黄灰色土 | 14. にぶい黄褐色砂 |
| 3. にぶい黄褐色土 | 15. 黒褐色土(焼き土跡混じり) |
| 4. にぶい黄褐色粘土 | 16. 黄褐色砂 |
| 5. にぶい黄褐色土 | 17. 灰黄褐色土 |
| 6. 明黄褐色土 | 18. 灰黄褐色土に褐色粘土混じる |
| 7. 灰黄褐色粘土 | 19. 褐色粘土オリーブ褐色粘土 |
| 8. にぶい黄褐色砂 | 20. オリーブ褐色粘土 |
| 9. 灰黄色砂 | 21. オリーブ褐色粘土 (にぶい黄色粘土混じる) |
| 10. 褐色土 | 22. にぶい黄褐色砂 |
| 11. 暗オリーブ褐色土 (土師器混じる) | 23. にぶい黄褐色粘土 (マンガン鉄含む) |
| 12. にぶい黄褐色砂混じり粘土 | 24. にぶい黄褐色砂 |

第13図 2006-01 地点 遺構平面図・断面図 (1:60)

ヘラミガキが認められるが、外面にはなく高台も非常に粗雑で、底部が高台よりも突き出し、高台の役割を果たしていない。全体的に扁平で、13世紀中頃と考えられる。3は高台部のみ的小片であるが、2よりも作りがしっかりしており、見込みに平行線状の暗文がかすかに見られることから、2よりも少し古い時期のものと考えられる。

包含層出土の遺物(第14~17図)

瓦器椀・皿、瓦質羽釜・鉢・甕、土師器皿、土師質羽釜・鉢、中国製磁器、国産陶器、瓦など、多数の遺物が出土した。

瓦器椀(第14図 4~23)

瓦器および瓦器皿の破片は240点ほど出土し、そのうち瓦器椀と判別できる19点を図化した。時期は大別して二つに分かれる。4~15の瓦器は、内面にヘラミガキが行なわれ、見込みには平行線状の暗文が施されている。概ね13世紀前半の土器群である。16~23は、前述のものに比べ内面のヘラミガキが簡素化し見込みに暗文が認められない。13世紀中頃と考えられる。

瓦器皿(第14図 24~34)

破片は上記のように出土しているが、比較的残存の良い12点を図化した。大別すると、これらは3種類のタイプに分けることができる。24~29は、口縁部外面下にヨコナデを施し口縁端部を丸く納めている。30~32は口縁部外面下のヨコナデを強く施すことにより器壁を薄く仕上げている。33は、少し器高が深めで椀の可能性もあるが、口径が小さく皿とした。これらは前項の瓦器椀とほぼ同時期と考えられるが、資料不足の段階であるため、今後の成果をよく見極めたいと考えている。

土師器皿(第15図 35~56)

土師器皿と思われる破片は約160点出土し、そのうち22点を図化した。これらの土師器皿は小皿(35~54)、大皿(55~56)がある。小皿は1~5類に分けることができる。1類(35~37)は他に比べて色調に特徴があり橙色を呈している。2類(38~40)はやや小ぶり、口縁部内外面のヨコナデは後述のものより強く、そのため器形がやや扁平な台形になっている。3類(41~47)は、口縁部内外面ヨコナデ、底部は指押さえが施されている。4類(48~53)は3類に比べ少し扁平になり口径も少し大きくなる。調整はさほど変わらない。5類(54)は、扁平な器形に口縁部を極端に内折りさせた特殊な形をしている。4・5類は、皿や椀の下に敷きコースターのような使い方をした可能性が考えられている。55は深めの大皿で、口縁部のヨコナデが強く稜をなしている。56は口径が大きく扁平な形をしている。

瓦質羽釜(第15・16図 57~71)

瓦質羽釜の破片と考えられるものは約110点あり、そのうち15点を図化した。57・58は口縁部が短く立ち上がり、端部を丸く納めている。これは13世紀後半頃の土師質羽釜の影響を受けて作られたと考えられ、瓦質羽釜出現期のものである可能性が指摘できる。59~62は口縁部外面を内傾させ、ヨコナデにより段を作出する。口縁部はやや丸く、14世紀頃のものと考えられる。63は、この地点における出土羽釜の中では他にない形式で、口径が小さく鈎も短い。また、内外面丁寧にナデ調整されている。64~66は59~62に形態が似ているが、口縁端部に面を持つ。67は小片で全容は不明であるが、鈎部上面にヘラ記号のようなものが見られる。第16図の68~71も、64~66と形態が似ているが、さらに口縁端部をナデで長く引き出しており、64~66よりも新しく、15世紀頃のものと考えられる。

土師質羽釜(第16図 72~80)

土師質羽釜と確認できる破片は約70点出土し、そのうち9点を図化した。72・73は他に比べて胎土がやや粗く、口径も小さめで、器壁も分厚い作りになっている。76~79は、短く立ち上げた口縁部を「く」の字に外反させたもので、13世紀頃と考えられる。78は特に強く口縁部を折りまげており、他のものよりやや新しい様相といえる。74・75は、口縁部を短く直立したあと、端部を肥厚させて玉縁を呈している。13世紀後半のものと考えられる。80は口縁部が残っていないため詳細は不明であるが、前述のものに比べ鈿上部が丸みを帯びている。

須恵質鉢(第17図 81・82)

81・82は東播系須恵質の鉢である。回転ナデにより調整されている。14世紀代。

その他の瓦質・土師質製品(第17図 83~86)

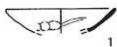
瓦器・皿・羽釜以外の瓦質製品の破片は約265点、土師器の皿・羽釜以外の土師質製品の破片は約260点と多く出土しているが、図化可能なものは6点のみである。83は瓦質の甕である。口縁部短く立ち上げて外反させたあと肥厚させており、外面は細かい平行タタキを施す。13世紀後半のものと考えられる。84は瓦質、85は土師質の土鍾である。86は土師質の鉢である。底部外面に糸切り痕があり、輪縁成形と考えられる。東播系須恵質鉢の要素を備えていることから、その焼成不良品の可能性もある。

陶磁器(第17図 87~98)

87は中国製青白磁合子である。型作りにより外面は蓮花文を浮かし出している。口縁部付近は露胎。13世紀頃のものと考えられる。88は同窯系青磁皿である。体部中位で屈曲し、体部外面下半は無釉で、内面はヘラによるジグザグ状の髹点描文が見られる。12世紀中頃から後半にかけてのものである。89は龍泉窯系青磁皿で、体部中位で屈曲、口縁部は直に引き出し、口縁端部は丸味を持つ。12世紀中頃から後半にかけてのものである。90は龍泉窯系の青磁碗で、体部外面に鎔蓮弁文が施される。弁の中心線はゆるい稜を持つ。内面は無文で、高台部は一部が露胎。13世紀前後から前半にかけてのものである。91は龍泉窯系の青磁碗と考えられるが、残存が非常に少なく、詳細は不明。12世紀頃と考えている。92~94は、中国製の白磁であるが、残存が非常に少ない。92は碗の高台が細く高く直立し、外面が無釉であることなどから、12世紀頃と考えられる。93・94は、詳細不明である。95は常滑壺、96~98は古瀬戸であろうか。小片であり、詳細は不明である。

瓦(第17図 99~101)

約30点の瓦片が出土したが、そのうち3点を図化する。99は丸瓦である。凸面は縄目をナデでスリ消しており、凹面は布目が残っている。100・101は平瓦で、凹面に布目、凸面に縄目を残している。100は縄目が粗く、11~12世紀のものと考えられる。



1



2



3

遺構出土遺物



4



5



6



7



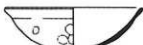
8



9



10



11



12



13



14



15



16



17



18



19



20



21



22



23

包含層出土遺物 瓦器碗



24



25



26



27



28



29



30



31



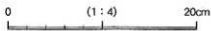
32



33

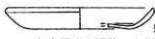
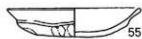
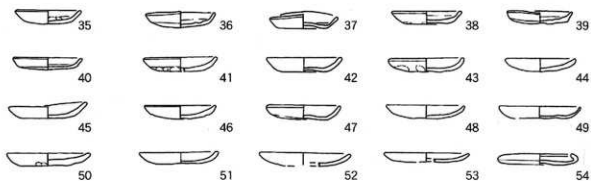


34

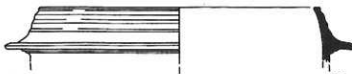
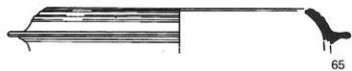
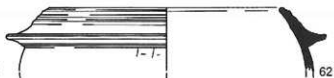
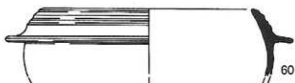
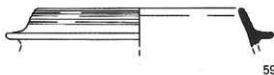
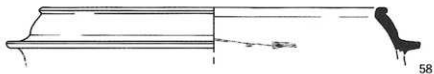


包含層出土遺物 瓦器皿

第14圖 2006-01 地点 出土遺物実測図 (1)

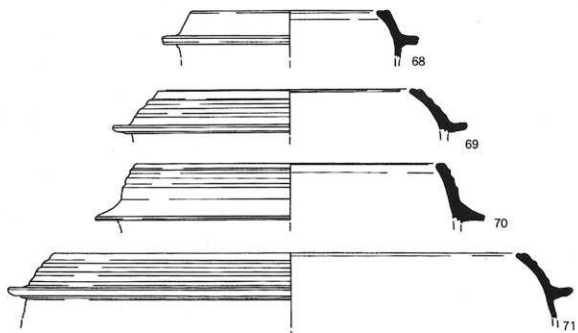


包含層出土遺物 土師器皿

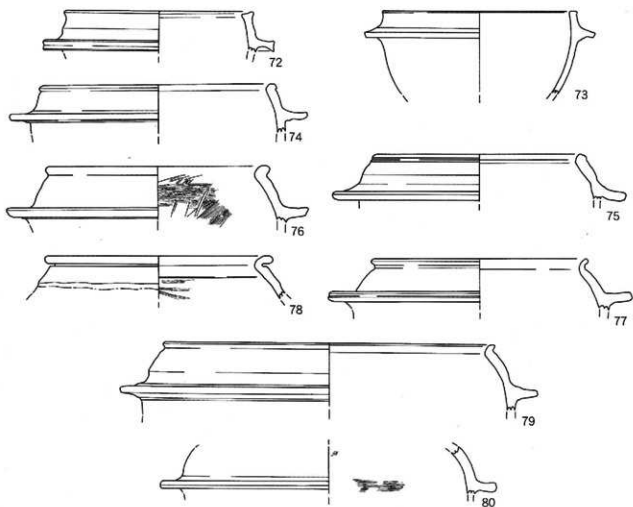


包含層出土遺物 瓦器羽釜

第15图 2006-01 地点 出土遺物実測图 (2)

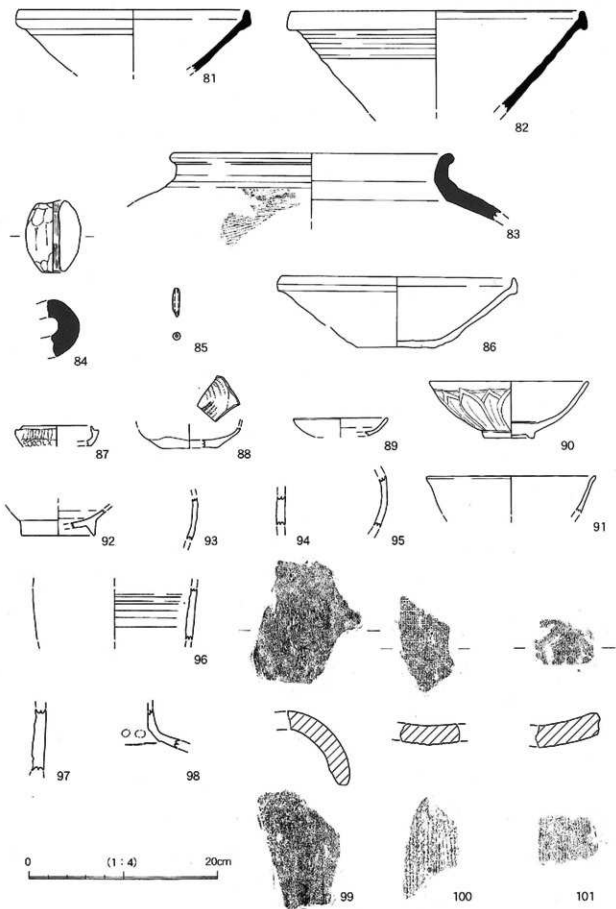


包含層出土遺物 瓦質羽差



包含層出土 土師質羽差

第16圖 2006-01 地点 出土遺物実測図 (3)



包含層出土遺物

第17圖 2006-01 地点 出土遺物実測図 (4)



調査区完掘状況（北から）



調査区全景（北東から）



西壁断面（東から）



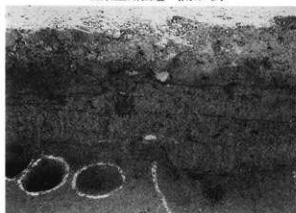
サブレンチ掘削状況（東から）



北東壁断面①（南から）



北東壁断面②（南から）

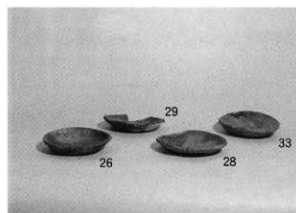
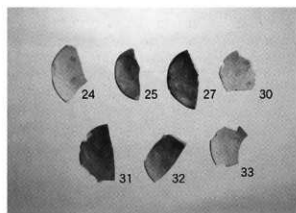
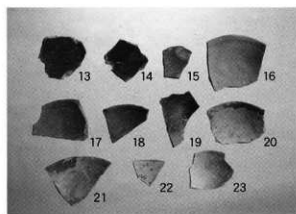
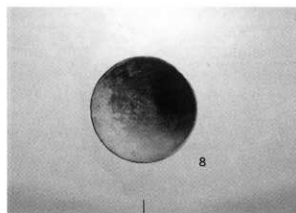
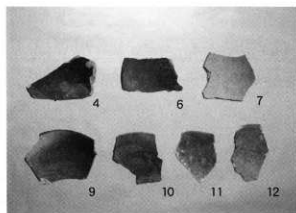
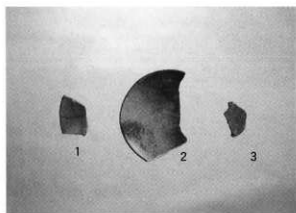


東壁断面①（西から）

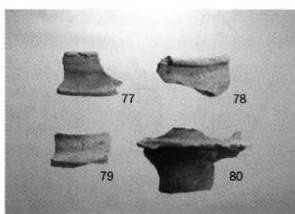
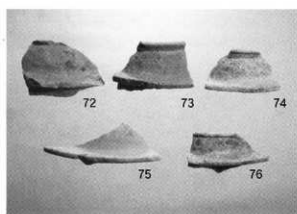
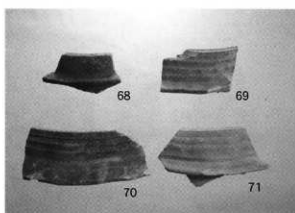
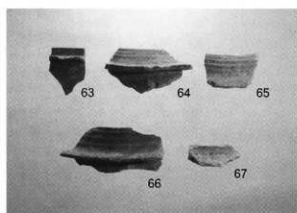
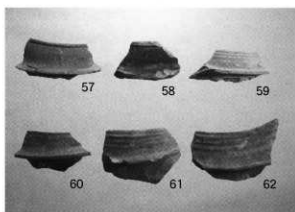
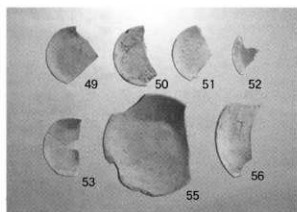
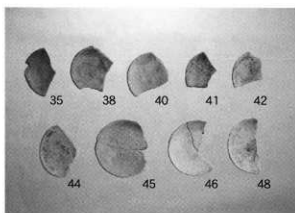
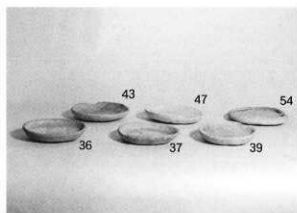


東壁断面②（西から）

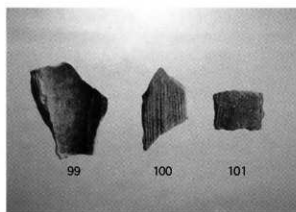
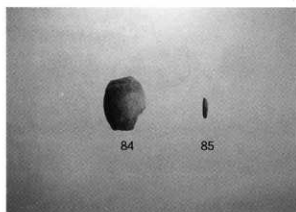
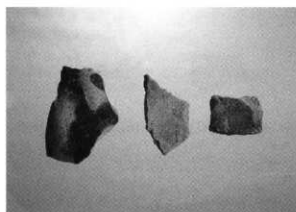
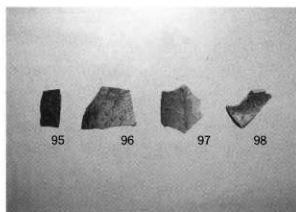
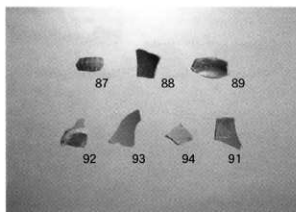
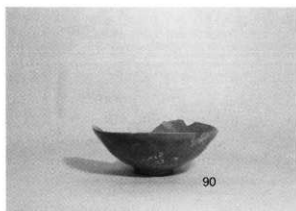
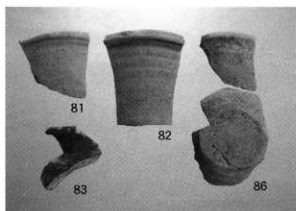
図版3 2006-01 地点



図版4 2006-01 地点 出土遺物 (1)



图版5 2006-01 地点 出土遗物 (2)

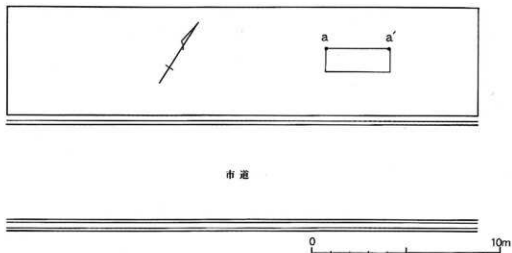


图版6 2006-01 地点 出土遗物 (3)

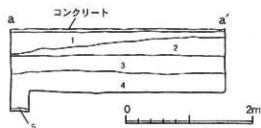
2006-06(東豊中町2丁目964-19 平成18年8月4日調査)

共同住宅建設に先立つ調査である。当該地は遺跡のほぼ中央部に位置する。敷地の北東部に幅1.25cm、長さ3.4mのトレンチを設定し、重機にて掘削を開始し、その後人力掘削により調査を実施した。

現地表面から40cm程度の盛土(1・2層)がなされている。この下に旧耕作土である暗褐色粘質土(3層)が30cm、旧床土である明灰色土(4層)が60cm堆積する。確認の範囲は工事への影響を考え、工事予定掘削深の1mでとどめたが、トレンチの一部をさらに掘削したところ、地表面から1.3m地点に、地山である明灰色砂質土層(第5層)を確認した。遺構、遺物は確認できず、建築物の基礎は4層内でおさまることから、写真撮影・図面作成などを行い調査終了とした。



第18図 2006-06 地点 トレンチ位置図 (1:200)



第19図 トレンチ北壁断面図 (1:60)

1. 砕石
2. 盛土
3. 暗褐色粘質土(ややしまりなし、粘質、現代の水田跡)
4. 明灰色土(しまる、厚径3センチ~5cm程度の礫が少量(5%程度)混じる、酸化鉄多く混じる)
5. 地山:明灰色砂質土(ややしまる)



トレンチ全景 (西から)



トレンチ北壁断面 (南から)

図版6 2006-01 地点

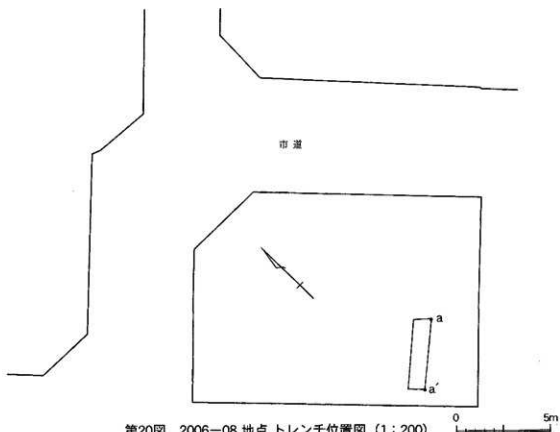
2006-08(北豊中町2丁目14-5 18年9月21日調査)

個人住宅建設に先立つ調査である。豊中遺跡の北西部に位置する。敷地東部に幅1m、長さ3mのトレンチを設定し重機にて掘削を開始し、その後人力により調査を実施した。工事は設計GLから1.3mの地盤改良を予定しているが、原因者より地盤強度の問題から掘削は工事の範囲でとどめて欲しいとの申し出があった。

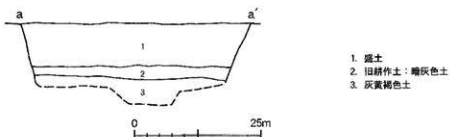
現地表面から70cm程度の盛土(1層)がなされている。この下に旧耕作土である暗灰色土(2層)が約20~30cm堆積し、その下に須恵器・土師器を含む遺物包含層(3層)がある。3層より14点の遺物を検出したが図示できるのは2点(第22図)のみである。1は瓦器碗である。外面の調整は不明であるが、内面は綫ミガキが施されている。2は羽釜の体部であろう。内面はハケ調整。

調査の結果、包含層のほぼ上面が地盤改良の予定された深度であり、遺構は確認できなかった。許可を得てトレンチの一部をさらに掘削したところ、3層がさらに40cm以上堆積しており、河川跡などの可能性が高い。

工事が包含層のほぼ上面までであることを確認し、写真撮影・図面作成などを行い調査終了とした。



第20図 2006-08 地点 トレンチ位置図 (1:200)



第21図 2006-08 地点 トレンチ断面図 (1:60)



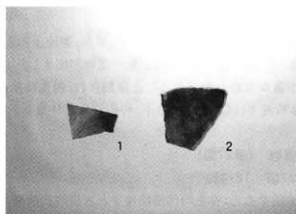
第22図 2006-08 地点 包含層出土遺物 (1:4)



トレンチ全景 (南西から)



トレンチ東壁 断面 (西から)



出土遺物

図版 8 2006-08 地点

2006-11(北豊中町2丁目地内 平成18年11月27日～12月19日調査)

<調査の経緯と経過>

調査地は豊中遺跡の北西部に位置し、大福寺跡、セノ坪遺跡に隣接する。この地域は市内で最も遺跡の集する地区のひとつである。

下水道管渠掘削工事が予定されたため、工事に先立って試掘確認調査を行った。工事範囲は市道355.2mの範囲に、幅約1.2m、深さ約150cm～180cm、の溝状の予定である。調査は遺跡範囲の確認と土層観察、出土遺物採集に主眼を置いた。工事範囲にトレンチを10本設定し、重機にて表土掘削を開始しその後人力により調査を実施し、断面図・平面図作成、写真撮影などの記録を行なった。

<調査の概要>

全体で157.43㎡の範囲の調査を行なった。工事範囲の基本層序を概すると、現地表面から約70cmが区画整理時の盛土(1層)である。その下に旧耕作土(2層)、包含層:黄灰色土(3層)が堆積する。その下は砂礫層、砂層、粘土層が堆積しており、調査地周辺は幾筋もの河川が流れていたと推測される。

1T・3Tから溝状の遺構、10Tから地山がやや掘り窪まり、遺物がまぎらまぎら出土する地点を確認したが、詳細は不明である。調査区周辺は河川が幾重にも重なり合うように流れており、その河川の所々に自然のくぼみが発生し遺物が落ち込んでいると考えられる。1Tの一部は掘立柱建物を検出した2006-01地点に隣接するが、明確な遺構は確認することができなかった。以下トレンチごとに土層と遺物の出土状況について概観する。

- 1T トレンチ西部に、東西方向の溝を確認した。主に古墳時代初頭～前期の遺物が出土した。
- 2T 遺構は確認できない。遺物は細片のみ出土し、図示できるものはない。
- 3T トレンチの東部に浅い溝状の遺構を確認した。主に古墳時代初頭の遺物が出土した。
- 4T 中央部から西側に向かって傾斜している。遺構は確認できないが、最も出土遺物が多く、弥生時代後期～古墳時代前期、13世紀を中心とする遺物が出土した。
- 5T 遺構は確認できない。遺物は細片のみ出土し、図示できるものはない。
- 6T 遺構は確認できない。遺物は細片のみ出土し、図示できるものはない。
- 7T 遺構・遺物は確認できない。
- 8T 遺構・遺物は確認できない。
- 9T 遺構・遺物は確認できない。
- 10T トレンチ西部に土器が多く溜まる窪みを確認した。こぶし大の礫と重なり合うように、13世紀を中心とする土器群が出土した。

<遺物>

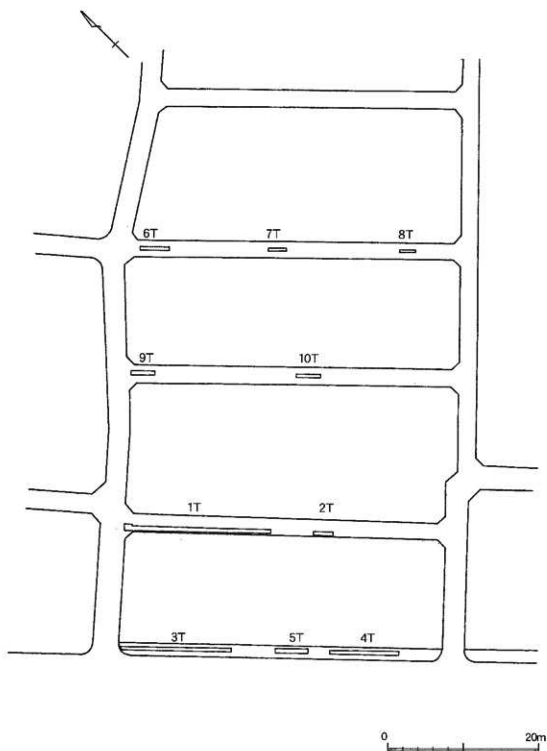
1・3・4・10Tを中心に 弥生時代後期後半の壺、壺、高坏、器台、製塩土器と13世紀後半～14世紀初頭の瓦器碗・皿、瓦質羽釜、土師器皿、土師質羽釜、瓦など、多数の遺物が出土した。そのうち39点を図示する(第27・28図)。調査地は溝・河川が重なりあう地域であると推測され、複数時期の遺物が混在して検出されており、廃棄の詳細が確認できる状況ではなかった。以下、時代ごとに詳細を示す。

弥生時代末～古墳時代の土器群 (第27図)

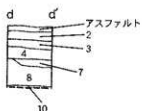
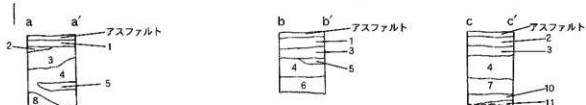
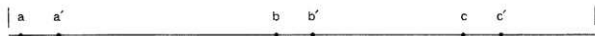
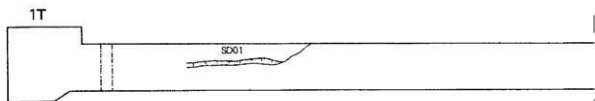
壺(第27図 1～11)・壺(第27図 12・13)

11点を図化した。これらは大別すると、弥生時代後期後半と古墳時代前期の2時期に分けられる。

1～7, 9は弥生形壺である。1の体部上部はほぼ平行に、下部は右上がりにタタキ技法で成形されている。2～5体部は右上がりのタタキ技法で分割成形されている。1～7は弥生時代後期後半、9は古墳時代に属す



第23図 2006-11 地点トレンチ位置図 (1:500)



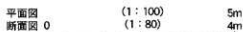
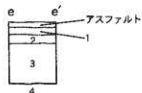
1T

1. 砂石
2. 褐色粘質土 (ややしまる、やや締多く湿じる)
3. 暗灰色土 (しまる層径5cm程の礫多く湿じる)
4. 暗灰色土 (ややしまる、やや砂質、遺物少量湿じる)
5. 礫 (層径20cm程の礫がつまる、掘削工事時の砂石?)
6. 灰色砂質土 (ややしまりなし)
7. 黒灰色土 (暗灰色土やや湿じる (30%~50%)、ややしまりなし)
8. 暗灰色土 (ややしまりなし、砂質)
9. 地山1: 暗灰緑色土 (ややしまる、やや砂質)
10. 地山2: 灰色砂 (しまりなし)
11. 地山3: 暗灰色粘土 (しまる)

2T

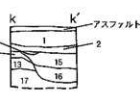
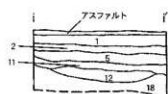
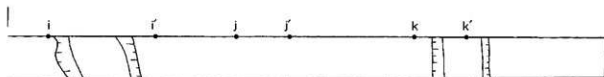
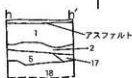
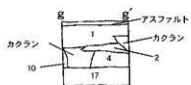
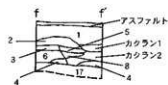
1. 砂石
2. 暗灰色土 (しまる層径5cm程の礫多く湿じる)
3. 暗灰色土 (ややしまる、やや砂質、遺物少量湿じる)
4. 地山: 灰色砂 (しまる、層化顕著湿じる)

2T

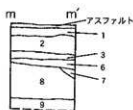
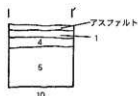


第24図 2006-11地点 平面図(1:100)・断面図(1:80) (1)

3T



5T



3T

1. 盛土
2. 旧耕作土：黒灰色土（ややしまる、やや粘質）
3. 灰色土（しまる、やや粘質、炭化物微量混入、土層片僅かに混入）
4. 灰色土（ややしまる、やや粘質、遺物片多く混入）
5. 灰褐色土（4と同質、遺物断片多く混入、厚さ3cm程度混入10~20%）
6. 明灰色土（3とほぼ同質だが地下水の影響か、土色が異なる）
7. 暗灰色土（ややしまる、やや粘質、遺物多く混入）
8. 褐色土（ややしまる、やや粘質、遺物少量混入）7とほぼ同質だが土色が異なる
9. 黒灰色土（ややしまる、やや粘質）
10. 明灰色土（ややしまる、酸化鉄多く含む）
11. 灰白色砂土（しまる、酸化鉄多く含む、遺物多く含む）
12. 灰褐色土（しまる、やや粘質、褐色砂や混入、遺物多く混入）
13. 灰白色砂（しまる、灰・遺物微量に混入）
14. 黄灰色土（ややしまる、やや粘質）
15. 灰白色土（しまる、やや粘質、遺物多く混入）
16. 灰色土（遺物僅かに混入、硬多く混入の厚さ3cm30%）
17. 地山1：灰色砂
18. 地山2：褐色砂

5T

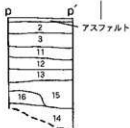
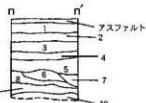
1. 盛土
2. 耕作土：黒灰色土
3. 黄灰色土（しまる、酸化鉄多く含む）
4. 灰色砂（しまりなし、片断砂か）
5. 黒灰色砂礫（ややしまりなし）
6. 明灰色砂質土（ややしまりなし、酸化鉄多く混入、硬さ3~5cm少数20%~30%混入）
7. 灰色砂（砂子用い、直径30mの小礫10%混入）
8. 灰色砂礫（しまりなし、硬さ5cm~5cmの礫と灰色砂）
9. 暗灰色粘土（ややしまりなし）
10. 地山

平面図 (1:100)
断面図0 (1:80)

5m
4m

第25図 2006-11地点 平面図(1:100)・断面図(1:80) (2)

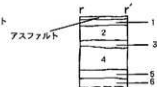
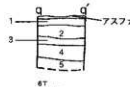
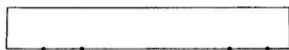
4T



4T

1. 砕石
2. 盛土
3. 旧砂土・黒灰色粘質土 (しまる、透物少量混じる)
4. 灰白色(しまる、やや粘質、石灰土に類するものあり)
5. 暗灰色粘質土(ややしまりなし、透物少量混じる) 粘着層
6. 暗灰色粘質土(ややしまりなし、透物少量混じる)
7. 黒灰色粘土(ややしまる)
8. 灰白色(7)のまじり
9. (ややしまりなし、透物含む)
10. 地山・灰白色
11. 灰白色粘土
12. 黄灰色粘質土
13. 暗灰色粘土 (透物を含む、しまる)
14. 白灰色砂(透物含まない)
15. 黒灰色粘土(透物多く、身む)
16. 灰白色砂(ややしまる)
17. 暗灰色粘土(ややしまる)
18. 灰白色粘土(ややしまりなし)

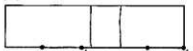
6T



6T

1. 砕石
2. 盛土
3. 旧砂土・黒灰色土
4. 灰白色粘土(しまりあり)
5. 灰白色粘土
6. 地山・暗灰色粘土

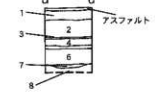
7T



7T

1. 砕石
2. 盛土
3. 盛土
4. 黒色土 (ややしまる、やや粘質、小砂少量混じる層厚3cm以下)
5. 灰白色(ややしまる、やや粘質)
6. 灰白色粘土 (7より強い、ややしまりなし、やや中身強い)
7. 灰白色粘土(ややしまる、石灰土に類するものあり)
8. 暗灰色粘土(7と同層)
9. 黒灰色粘土(しまる)

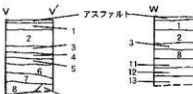
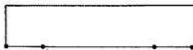
8T



8T

1. 砕石
2. 盛土
3. 盛土
4. 黒色土(ややしまる、やや粘質、小砂少量混じる層厚3cm以下)
5. 灰白色(ややしまる、やや粘質)
6. 灰白色粘土(7より強い、ややしまりなし、粘りやや強い)
7. 多量粘質土(ややしまる、6より粘り感あり)
8. 黄灰色粘土(しまる)

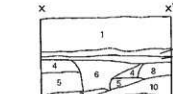
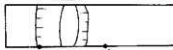
9T



9T

1. 砕石
2. 盛土
3. 旧砂土・黒色土
4. 灰白色(しまりなし)
5. 灰白色粘土 (ややしまる、粘着層あり)
6. 暗灰色(ややしまる、やや粘質、厚さ約5cm、透物多く混じる層)
7. 暗灰色粘土(ややしまる、透土、石灰土に類するものあり)
8. 暗灰色粘土(ややしまる)
9. 暗灰色粘土(ややしまりなし、透物少量混じる)
10. 暗灰色粘土(透物混じる)
11. 暗灰色(ややしまる)
12. 暗灰色(ややしまる)
13. 暗灰色(ややしまる)

10T



10T

1. 盛土
2. 旧砂土・黒色粘土
3. 暗灰色土(ややしまりなし、中身強い)
4. 灰白色(ややしまりなし、透物少量混じる層厚3cm以下)
5. 暗灰色(ややしまりなし、透物少量混じる層厚3cm以下)
6. 灰白色(ややしまりなし、透物少量混じる層厚3cm以下)
7. 灰白色(透物少量混じる層厚3cm以下)
8. 暗灰色粘土(ややしまる、透物少量混じる)
9. 暗灰色粘土(ややしまる、透物少量混じる)
10. 暗灰色粘土(ややしまる、透物少量混じる)
11. 暗灰色粘土(ややしまる、透物少量混じる)

平面図
断面図(1:100)
(1:80)5m
4m

第26図 2006-11 地点 平面図(1:100)・断面図(1:80) (3)

ると考えられる。6,7は裏底部である。8は台付甕の脚部であろう。10,11は古式上師器甕である。10は口縁端部が上方に拡張され、外傾する。

12は複合口縁壺である。13は広口壺の口縁部である。口縁端部をやや幅広に垂下させ、竹管円形浮文を施している。12,13は古墳時代初頭であろう。

高坏・器台(第27図 15~18)

15は弥生高坏である。外面は縦方向、内面は横方向のヘラミガキが丁寧に施されている。16は高坏の脚部である。弥生時代後期後半に位置づけられよう。17は椀形高坏である。脚柱部は短く、脚裾部は直線的に広がり、3ヶ所の穿孔が確認される。古墳時代初期であろう。18は高坏である。古墳時代前期であろう。19は小型器台である。透孔が5箇所に形成される。古墳時代初期であろう。20は小片であるため詳細は不明であるが器台であろう。山陰地方からの搬入品である可能性がある。島根を中心に広がる、的場式、鍵尾式に類似している。櫛描平行沈線を施した後、波状紋が入る。突帯にはヘラ状工具でキザミを入れている。

21は小型丸底土器である。完全な丸底で口縁部高が体部の1/2以下と短い。古墳時代前期のものと考えられよう。22は製塩土器である。タタキ成形を施している。

13世紀後半から14世紀初頭の土器群 (第28図)

瓦器碗・皿(第28図 23~25)

23,24は瓦器碗である。外面は指オサエ、内面はヘラミガキが行なわれ、23は平行線状、24は連結輪状の暗文が施されている。25は瓦器小皿である。

土師器皿(第28図 26~28)

大別すると小皿(26)、大皿(27・28)がある。26は器形がやや扁平な台形である。27,28はやや深めの大皿である。27の口縁部のヨコナデが強く、やや外反する。

瓦質羽釜・土師質羽釜(第28図 29~31)

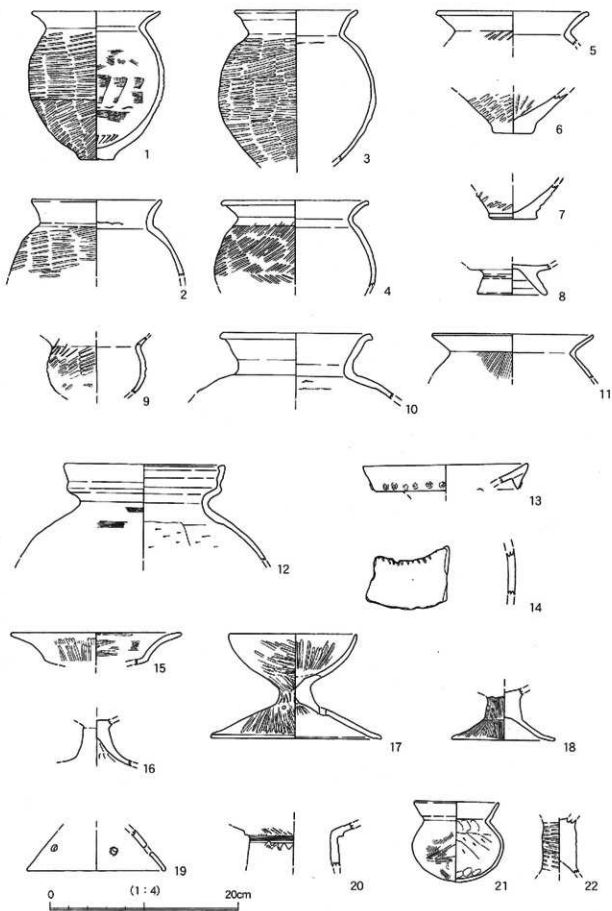
29,30は瓦質羽釜である。10T土器溜りから出土した。口縁部外面を内傾させヨコナデにより段を作る。口縁端部に面をもつ。31は土師質羽釜である。口縁部を外側に折り込むように作出している。

須恵器・常滑(第28図 32~34)

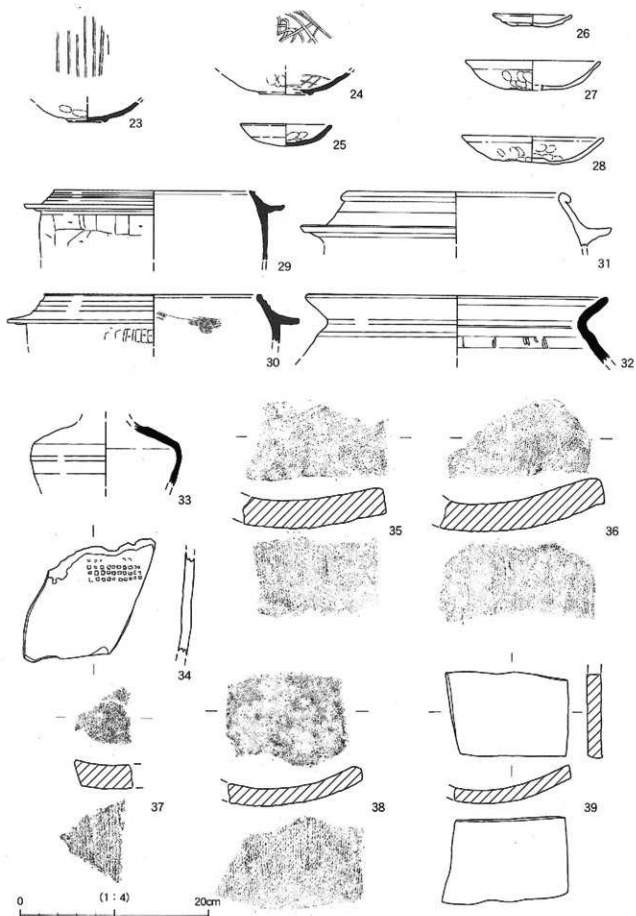
33は須恵器である。長頸壺の体部と考えられる。34は常滑大型甕の肩部であろうか。傾きはほぼ平行に近くなるかも知れない。外面は格子状タタキで調整し、緑釉を施す。

瓦 35~39(第28図)

すべて平瓦である。38は凹面に布目痕、凸面に縄目痕が残り、製作期は9~10世紀と考えられる。



第27图 2006-11 地点 出土遗物实测图 (1)



第28图 2006-11 地点 出土遗物实测图 (2)



2T 断面 (南から)

2T 全景 (北西から)



3T 全景 (北西から)



3T 断面 (南から)



1T 全景 (北西から)



4T 全景 (北西から)



4T 断面 (南から)

図版9 2006-11 地点 (1)



5T (北西から)



6T (北西から)



7T (北西から)



8T (北西から)



9T (北西から)



10T (北西から)



10T 断面 (北から)



10T 土器溜り (西から)

図版10 2006-11 地点 (2)



图版11 2006—11 地点 出土遗物

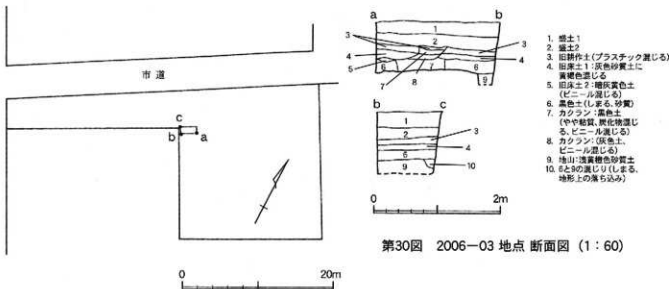
七ノ坪遺跡

遺跡は北豊中町1丁目、2丁目一帯に所在する、古墳時代と中世の遺跡で、府立泉大津高校の地歴部員による土師器壺採集が遺跡発見の契機となり、小字を遺跡名とした。昭和43年、同高校の校舎改築工事に先立つ発掘調査で、弥生時代の土壙墓、河川が、昭和47年の同校内の調査では、古墳時代の竪穴住居、方形周溝墓、木棺直葬墓などが、また昭和57年の調査では和泉地区では最初の水田跡の発見があり、弥生時代～古墳時代に亘って生産活動が行われていたことが確認された。中世の遺構としては井戸、溝、柱穴、土壙などがある。いずれも泉大津高校内が遺跡の中心部である。

2006-3地点（北豊中町1丁目534番1の一部 平成18年6月2日調査）

鉄骨平屋建店舗建設に先立つ調査である。七ノ坪遺跡の北部に位置する。敷地中央部に幅1m、長さ2.2mのトレンチを設定し重機にて掘削を開始し、その後人力掘削により調査を実施した。現地表土除去後、旧床土：灰色砂質土（4層）が約35cm堆積する。この下に、古代の耕作土と考えられる黒色砂質土層（6層）がある。

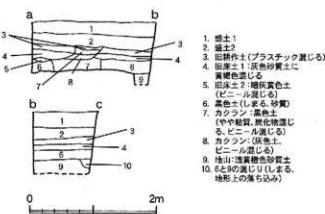
今回の調査では明確な遺構・遺物は認められなかったため、図面作成・写真撮影を行い調査終了とした。



第29図 2006-03 地点 トレンチ位置図 (1:500)



トレンチ全景 (北から)



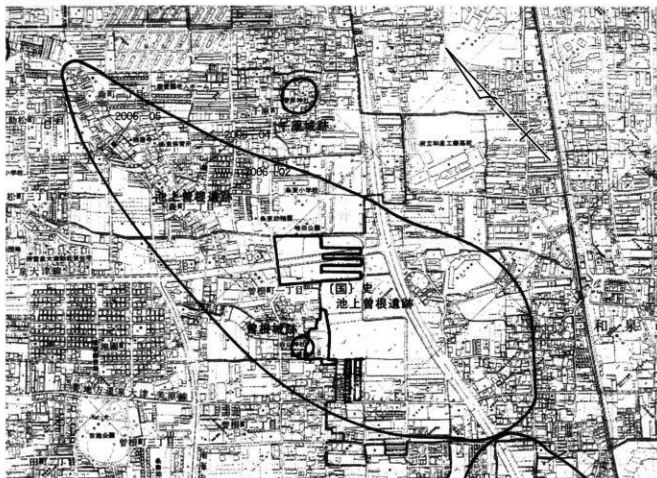
第30図 2006-03 地点 断面図 (1:60)



トレンチ南壁断面 (北から)

図版12 2006-03 地点

3. 池上曾根遺跡



第34図 池上曾根遺跡 調査区位置図 (1:10000)

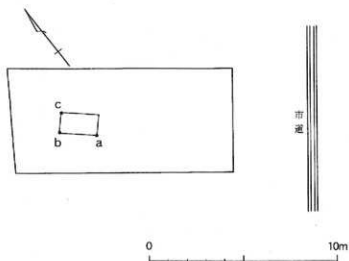
池上曾根遺跡は本市曾根町和泉市池上町に所在する。遺跡範囲が約105ヘクタールの広大な遺跡である。うち約11.5ヘクタールが国の史跡に指定され、3.5ヘクタールが第一期整備を経て史跡公園となっている。本市域における遺跡の範囲は、曾根神社以西から、森町、千原町の一部を含み、南北に広がる。史跡指定地域以外の地域は、旧村落と昭和40年代以降の開発部分が混在しており、小区画の開発が多く大規模な調査は行われていない。そのため史跡指定地域となっている遺跡の中心部構造に比べ、周辺部は不明な点が多い。本年は個人住宅 3件の試掘確認調査を実施した。以下、調査地点ごとに詳細を示す。

2006-02 (森町2丁目228-9 平成18年5月31日調査)

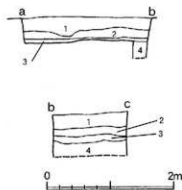
当該地は遺跡の北部に位置する。鉄骨2階建個人住宅の建設が予定されたため、工事に先立ち試掘確認調査を実施した。

敷地中央部に幅1m、長さ2mのトレンチを設定し重機にて掘削を行い、その後人力掘削により断面・平面観察を行った。現地表土除去後、灰色粘質土(旧耕作土)、その下層に鉄分を多く含む灰色シルト層がある。この灰色シルト層は30cm以上堆積する。調査区周辺は自然河川が流れていた地域であるため、河川もしくは支流の一部が流れ込んでいた可能性がある。

遺構・遺物は認められなかったため、断面図作成、写真撮影を行い調査終了とした。



第32図 2006-02地点 トレンチ位置図 (1:200)



1. 盛土
2. 灰色粘質土 (やしまりなし、砂子指かい)
3. 灰色シルト (やしまりあり、酸化鉄60%多く含む)
4. 灰色シルト (しまりあり、酸化鉄や含む20%)

第33図 2006-02地点 断面図 (1:60)



トレンチ全景 (南より)

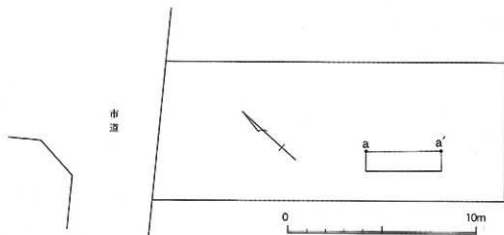


トレンチ南西壁断面 (北東より)

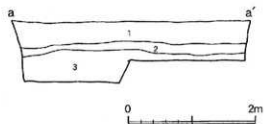
2006-04(森町2丁目227-25の一部 平成18年7月25日調査)

個人住宅建設に先立つ調査である。遺跡の北部に位置する。敷地北部に幅1m、長さ4mのトレンチを設定し、重機にて掘削を開始し、その後人力掘削により調査を実施した。

現地表面から30~40cm程度、盛土がなされている。この下に地山:明黄褐色砂質土(2層)が20cm程度堆積する。遺構・遺物ともに確認できず、写真撮影・図面作成などを行い調査終了とした。



第34図 2006-04 地点 トレンチ位置図 (1:200)



1. 盛土：褐色砂（一部カクラン）
2. 明黄褐色砂質土（しまる、灰白色粘土大ブロック（直径5cm）がやや多く混じる。小石（直径3cm）少量混じる）
3. 明黄褐色砂質土（しまる）

第35図 2006-05 地点 トレンチ断面図 (1:60)



トレンチ全景（南から）



トレンチ北東壁断面（南西から）

2006-05（森町2丁目146番 平成18年7月27日調査）

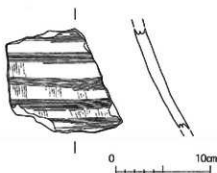
個人住宅建設に先立つ調査である。当該地は遺跡の北部に位置する。敷地の北西部に幅1m、長さ4mのトレンチを設定し重機にて掘削を開始し、その後人力掘削により調査を実施した。

現地表面から30cm程度、盛土がなされている。この下に包含層である黒褐色土が20cm程度堆積し、その下に遺構面が存在する。

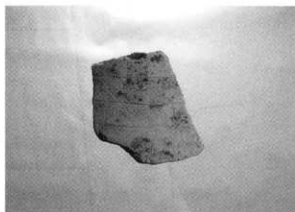
トレンチの南部から溝の一部が確認された。溝は深さ20cm程度で、調査区外に広がる。溝からは遺物は認められず、周囲の環境から自然流路と考えられる。

包含層から、4点の遺物が出土した。うち1点を図示する。1は頸部の長い広口壺であろう。外面は縦方向のヘラミガキの後、櫛描直線文を施している。

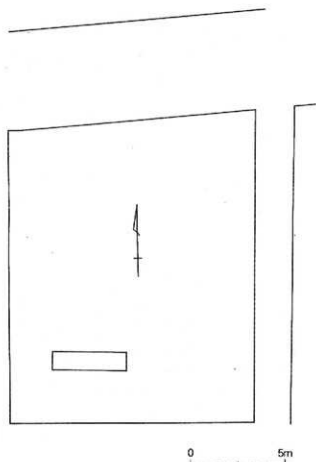
今回の調査では明確な遺構は認められなかったため、写真撮影・図面作成などを行い、調査終了とした。



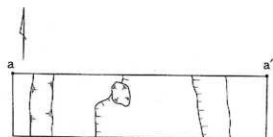
第36図 2006-05 地点 遺物実測図 (1:4)



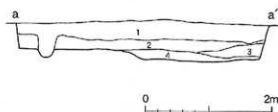
図版15 2006-05 地点 出土遺物



第37図 2006-05 地点 トレンチ位置図 (1 : 200)



第38図 2006-05 地点 平面図 (1 : 60)



1. 盛土
2. 黒褐色土(ややしまりなし、粘質)
3. 灰色砂質土 (しまる、直径3~5cmの小礫やや多く混じる)
4. 明灰色砂質土 (直径3cm程度の小礫がやや多く混じる)

第39図 2006-05 地点 トレンチ断面図 (1 : 60)



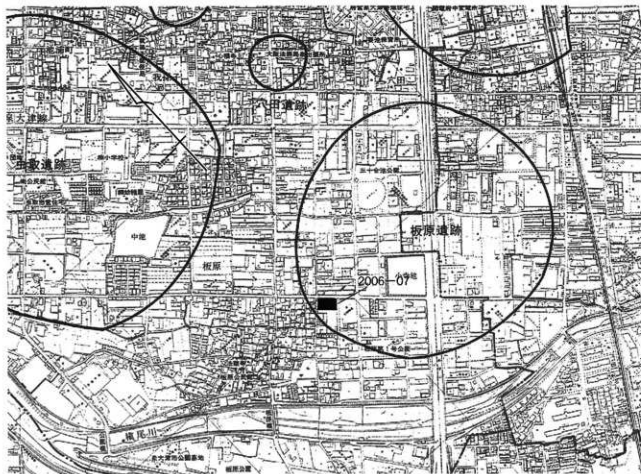
トレンチ全景 (東から)



トレンチ北壁断面 (南から)

図版16 2006-05地点

4. 板原遺跡



第40図 板原遺跡 調査区位置図 (1:10000)

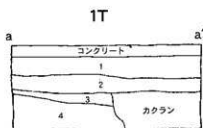
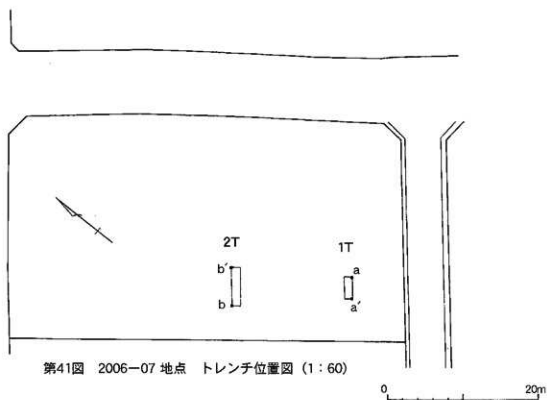
板原遺跡は、本市板原を中心とし、東南部では和泉市肥子町にまたがる。国道26号線の整備に伴う調査により縄文時代の流路や鎌倉時代の掘立柱建物などを検出している。その後の調査では明確な遺構の検出はみられなかったが、平成17年度の調査で瓦器筒小片・羽釜小片の出土とともに、中世における耕作状況がうかがえる素掘小溝群が検出された。今年度は、倉庫建設工事に先立つ1件の試掘確認調査を実施した。

2006-07 (板原町4丁目1096,1097,1098,1099 平成18年8月21日調査)

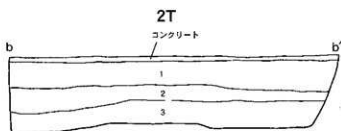
倉庫建設に先立つ調査である。板原遺跡の西端に位置する。敷地南西部に幅1m、長さ3mと幅1m、長さ5mのトレンチを2本設定し重機にて掘削を開始し、その後人力により調査を実施した。

現地表面から40m程度、地盤改良がなされている。この層は水田に礫を混ぜ込み地盤を安定させたと考えられる。この下に旧床土である暗灰色土が約20~30cm堆積し、その下は地山である。床土の下に暗渠が埋設され地山層まで攪乱が及んでいる箇所もあった。

今回の調査では明確な遺構・遺物は認められなかったため、写真撮影・図面作成などを行い調査終了とした。



- 1 T
1. 盛土：淡灰色砂質土（しまる、酸化鉄多く混じる）
 2. 暗灰色土（ややしまる、やや粘質、暗濁入る）
 3. 地山：灰色砂質土（ややしまる、酸化鉄多く混じる）
 4. 地山2



- 2 T
1. 盛土
 2. 暗灰色砂質土（しまる）
 3. 灰色砂質土（しまる、酸化鉄多く混じる）

第42図 2006-07 地点 トレンチ断面図 (1:60)



1T 全景 (南西から)



1T 東壁 断面 (西から)



2T 全景 (南西から)



2T 西壁 断面 (東から)

図版17 2006-07 地点

表2 遺物観察表

豊中遺跡 2006-01地点

番号	器種	出土地点	法量 (cm)	技法の特徴	色調・胎土・焼成
1	瓦器碗	No.3	口径 (118) 底径 - 24	内面 強い横ナデ以下指オサエ 外面 ナデのちへらミガキ	外面 灰白色 内面 黄褐色
2	瓦器碗	No.9	口径 (134) 底径 - 32	外面 口縁部ヨコナデ以下指オサエ 内面 ナデ	外面 灰白色 内面 黄褐色
3	瓦器碗	No.10	口径 - 底径 10 50	外面 横ナデ以下指オサエ 内面 黄褐色	外面 灰白色 内面 黄褐色
4	瓦器碗	包含層	口径 (142) 底径 38 高台径 24	外面 口縁部ヨコナデ以下指オサエ 内面 ナデのちへらミガキ	外面 灰白色 内面 黄褐色
5	瓦器碗	包含層	口径 151 底径 40 高台径 45 高台径 92	外面 口縁部ヨコナデ以下指オサエナデ 内面 ヘラミガキ	外面 灰白色 内面 黄褐色
6	瓦器碗	包含層	口径 (157) 底径 - 40	外面 口縁部ヨコナデ以下指オサエ 内面 ナデのちへらミガキ	外面 灰白色 内面 黄褐色
7	瓦器碗	包含層	口径 (163) 底径 - 45	外面 口縁部ヨコナデ以下ナデのちへらミガキ 内面 ナデのちへらミガキ	外面 灰白色 内面 黄褐色
8	瓦器碗	包含層	口径 142 底径 41	外面 口縁部ヨコナデ以下指オサエ 内面 ナデのちへらミガキ	外面 黄褐色 内面 黄褐色
9	瓦器碗	包含層	口径 (153) 底径 40 高台径 41 高台径 48	外面 口縁部ヨコナデ以下指オサエ 内面 ナデのちへらミガキ	外面 灰白色 内面 黄褐色
10	瓦器碗	包含層	口径 (144) 底径 - 38	外面 口縁部ヨコナデ以下指オサエ 内面 ナデのちへらミガキ	外面 灰白色 内面 黄褐色
11	瓦器碗	包含層	口径 (145) 底径 - 42	外面 口縁部ヨコナデ以下ナデのちへらミガキ 内面 黄褐色	外面 灰白色 内面 黄褐色
12	瓦器碗	包含層	口径 (142) 底径 46 高台径 (21)	外面 口縁部ヨコナデ以下指オサエ 内面 ナデのちへらミガキ	外面 灰白色 内面 黄褐色
13	瓦器碗	包含層	口径 - 底径 45 高台径 92	外面 横ナデ上 内面 ヘラミガキ	外面 灰白色 内面 黄褐色
14	瓦器碗	包含層	口径 - 底径 12 高台径 40 高台径 96	外面 横ナデ上ナデ 内面 ヘラミガキ	外面 黄褐色 内面 黄褐色
15	瓦器碗	包含層	口径 108 底径 48 高台径 92	外面 横ナデ上ナデ 内面 ナデのちへらミガキ	外面 灰白色 内面 黄褐色
16	瓦器碗	包含層	口径 (137) 底径 39 高台径 125 高台径 92	外面 口縁部ヨコナデ以下指オサエ 内面 ナデのちへらミガキ	外面 灰白色 内面 黄褐色
17	瓦器碗	包含層	口径 (145) 底径 - 36	外面 口縁部ヨコナデ、以下指オサエ 内面 ナデ	外面 灰白色 内面 黄褐色
18	瓦器碗	包含層	口径 (133) 底径 - 29	外面 口縁部ヨコナデ、以下指オサエ 内面 ナデ	外面 灰白色 内面 黄褐色
19	瓦器碗	包含層	口径 122 底径 40	外面 黄褐色 内面 黄褐色	外面 灰白色 内面 黄褐色
20	瓦器碗	包含層	口径 (138) 底径 34 高台径 (24) 高台径 92	外面 黄褐色 内面 黄褐色	外面 灰白色 内面 黄褐色
21	瓦器碗	包含層	口径 (150) 底径 39	外面 ヨコナデ、横ナデのちへらミガキ 内面 黄褐色	外面 灰白色 内面 黄褐色
22	瓦器碗	包含層	口径 (152) 底径 - 30	外面 横ナデ以下指オサエ 内面 黄褐色	外面 灰白色 内面 黄褐色
23	瓦器碗	包含層	口径 (110) 底径 - 21	外面 ヨコナデ以下指オサエ 内面 ナデ	外面 灰白色 内面 黄褐色
24	瓦器皿	包含層	口径 (88) 底径 - 22	外面 口縁部ヨコナデ、以下指オサエ 内面 横ナデ	外面 灰白色 内面 黄褐色
25	瓦器皿	包含層	口径 (97) 底径 - 15	外面 口縁部ヨコナデ、以下指オサエ 内面 ナデ	外面 灰白色 内面 黄褐色
26	瓦器皿	包含層	口径 83 底径 - 15	外面 口縁部ヨコナデ以下指オサエ 内面 横ナデ	外面 灰白色 内面 黄褐色
27	瓦器皿	包含層	口径 85 底径 - 17	外面 口縁部ヨコナデ、以下指オサエ 内面 ナデのちへらミガキ	外面 灰白色 内面 黄褐色
28	瓦器皿	包含層	口径 89 底径 - 14	外面 口縁部ヨコナデ以下指オサエ 内面 ナデのちへらミガキ	外面 灰白色 内面 黄褐色
29	瓦器皿	包含層	口径 88 底径 - 20	外面 口縁部ヨコナデ以下指オサエ 内面 ミガキ	外面 灰白色 内面 黄褐色
30	瓦器皿	包含層	口径 (90) 底径 - 14	外面 口縁部ヨコナデ以下指オサエ 内面 黄褐色	外面 灰白色 内面 黄褐色

番号	器種	出土地点	法量 (cm)	技法の特徴		色調・胎土・傷成	
31	瓦器皿	包含層	口径 8.7 底径 1.4	外面	口縁部ヨコナデ以下輪オサエ	外面 内面	灰白色 赤褐色
32	瓦器皿	包含層	口径 9.0 底径 1.7	外面 内面	口縁部ヨコナデ、以下輪オサエ ナデのちミガキ?	外面 内面	灰白色 赤褐色
33	瓦器皿	包含層	口径 9.0 底径 2.0	外面 内面	ヨコナデ ナデのちミガキ?	外面 内面	灰白色 赤褐色
34	瓦器皿	包含層	口径 9.2 底径 3.15	外面 内面	口縁部ヨコナデ、以下輪オサエ ナデのちミガキ	外面 内面	灰白色 赤褐色
35	土師器皿	包含層	口径 9.8 底径 1.45	外面 内面	口縁部ヨコナデ以下輪オサエ 赤褐色	外面 内面	赤褐色 赤褐色
36	土師器皿	包含層	口径 9.9 底径 1.7	外面 内面	ヨコナデ 赤褐色	外面 内面	赤褐色 赤褐色
37	土師器皿	包含層	口径 9.9 底径 1.3	外面 内面	口縁部ヨコナデ以下輪オサエ 赤褐色	外面 内面	赤褐色 赤褐色
38	土師器皿	包含層	口径 9.9 底径 1.3	外面 内面	口縁部ヨコナデ以下輪オサエ 赤褐色	外面 内面	赤褐色 赤褐色
39	土師器皿	包含層	口径 9.9 底径 1.6	外面 内面	口縁部ヨコナデ以下輪オサエ ナデ	外面 内面	赤褐色 赤褐色
40	土師器皿	包含層	口径 9.9 底径 1.3	外面 内面	ヨコナデ以下輪オサエ ナデ	外面 内面	赤褐色 赤褐色
41	土師器皿	包含層	口径 9.9 底径 1.5	外面 内面	口縁部ヨコナデ以下輪オサエ 赤褐色	外面 内面	赤褐色 赤褐色
42	土師器皿	包含層	口径 9.9 底径 2.05	外面 内面	赤褐色 ナデ	外面 内面	赤褐色 赤褐色
43	土師器皿	包含層	口径 9.9 底径 1.6	外面 内面	口縁部ヨコナデ以下輪オサエ 不定方向ナデ	外面 内面	赤褐色 赤褐色
44	土師器皿	包含層	口径 9.9 底径 1.6	外面 内面	赤褐色 赤褐色	外面 内面	赤褐色 赤褐色
45	土師器皿	包含層	口径 9.9 底径 1.7	外面 内面	口縁部ヨコナデ以下輪オサエ ナデ	外面 内面	赤褐色 赤褐色
46	土師器皿	包含層	口径 9.9 底径 2.0	外面 内面	赤褐色 赤褐色	外面 内面	赤褐色 赤褐色
47	土師器皿	包含層	口径 9.9 底径 1.85	外面 内面	ヨコナデ 不定方向ナデ	外面 内面	赤褐色 赤褐色
48	土師器皿	包含層	口径 9.9 底径 1.4	外面 内面	赤褐色 赤褐色	外面 内面	赤褐色 赤褐色
49	土師器皿	包含層	口径 9.9 底径 1.3	外面 内面	赤褐色 赤褐色	外面 内面	赤褐色 赤褐色
50	土師器皿	包含層	口径 9.9 底径 1.4	外面 内面	口縁部ヨコナデ以下輪オサエ ナデ	外面 内面	赤褐色 赤褐色
51	土師器皿	包含層	口径 9.9 底径 1.4	外面 内面	口縁部ヨコナデ以下輪オサエ ナデ	外面 内面	赤褐色 赤褐色
52	土師器皿	包含層	口径 9.9 底径 1.4	外面 内面	赤褐色 赤褐色	外面 内面	赤褐色 赤褐色
53	土師器皿	包含層	口径 9.9 底径 1.1	外面 内面	赤褐色 赤褐色	外面 内面	赤褐色 赤褐色
54	土師器皿	包含層	口径 9.9 底径 1.4	外面 内面	口縁部ヨコナデ以下輪オサエ ナデ	外面 内面	赤褐色 赤褐色
55	土師器皿	包含層	口径 9.9 底径 3.05	外面 内面	口縁部ヨコナデ以下輪オサエ 赤褐色	外面 内面	赤褐色 赤褐色
56	土師器皿	包含層	口径 9.9 底径 2.25	外面 内面	ヨコナデ、輪オサエのちナデ 赤褐色	外面 内面	赤褐色 赤褐色
57	瓦質羽釜	包含層	口径 9.9 底径 4.7	外面 内面	ヨコナデ、肩下ヘラケズリ ヨコナデ	外面 内面	赤褐色 赤褐色
58	瓦質羽釜	包含層	口径 9.9 底径 5.05	外面 内面	ヨコナデ肩下ヘラケズリ ハケ	外面 内面	赤褐色 赤褐色
59	瓦質羽釜	包含層	口径 9.9 底径 4.2	外面 内面	ヨコナデ肩下ヘラケズリ ヨコナデ	外面 内面	赤褐色 赤褐色
60	瓦質羽釜	包含層	口径 9.9 底径 5.15	外面 内面	ヨコナデ肩下ヘラケズリ ハケ	外面 内面	赤褐色 赤褐色

番号	器種	出土地点	法量 (cm)	技法の特徴		色調・胎土・焼成
61	瓦質羽釜	包含層	口径 残高 底径 - 02.2 7.0	外蓋 内蓋	ヨコナデ、肩下ヘラケスリ ヨコナデ	灰色 赤色 黒色 茶色
62	瓦質羽釜	包含層	口径 残高 底径 - 04.6 5.8	外蓋 内蓋	ヨコナデ、肩下ヘラケスリ ヨコナデ	灰色 赤色 黒色 茶色
63	瓦質羽釜	包含層	口径 残高 底径 - 16.2 4.5	外蓋 内蓋	ヨコナデ肩下ナデ? ナデ	灰色 赤色 黒色 茶色
64	瓦質羽釜	包含層	口径 残高 底径 - 07.6 5.8	外蓋 内蓋	ヨコナデ、肩下ヘラケスリ ナデ	灰色 赤色 黒色 茶色
65	瓦質羽釜	包含層	口径 残高 底径 - 07.6 3.6	外蓋 内蓋	ナデ ナデ	灰色 赤色 黒色 茶色
66	瓦質羽釜	包含層	口径 残高 底径 - 09.6 5.9	外蓋 内蓋	ヨコナデ ヨコナデ	黒色 赤色 黒色 茶色
67	瓦質羽釜	包含層	口径 残高 底径 - 36.0 2.2	外蓋 内蓋	ヨコナデ、ヘラケ有あり ヨコナデ	灰色 赤色 黒色 茶色
68	瓦質羽釜	包含層	口径 残高 底径 - 00.8 5.0	外蓋 内蓋	ヨコナデ、ヘラケスリ ヨコナデ	灰色 赤色 黒色 茶色
69	瓦質羽釜	包含層	口径 残高 底径 - 08.2 4.7	外蓋 内蓋	ヨコナデ ヨコナデ	灰色 赤色 黒色 茶色
70	瓦質羽釜	包含層	口径 残高 底径 - 02.6 4.4	外蓋 内蓋	ヨコナデ ヨコナデ	灰色 赤色 黒色 茶色
71	瓦質羽釜	包含層	口径 残高 底径 - 41.0 7.1	外蓋 内蓋	ヨコナデ肩下ケスリ ナデ	灰色 赤色 黒色 茶色
72	土師質羽釜	包含層	口径 残高 底径 - 19.6 4.2	外蓋 内蓋	ヨコナデ ヨコナデ	灰色 赤色 黒色 茶色
73	土師質羽釜	包含層	口径 残高 底径 - 06.4 5.9	外蓋 内蓋	ヨコナデ肩下ケスリ? 表面割割	灰色 赤色 黒色 茶色
74	土師質羽釜	包含層	口径 残高 底径 - 04.0 5.0	外蓋 内蓋	ヨコナデ、肩下ヘラケスリ ヨコナデ	灰色 赤色 黒色 茶色
75	土師質羽釜	包含層	口径 残高 底径 - 01.8 4.9	外蓋 内蓋	ヨコナデ肩下ヘラケスリ ヨコナデ	灰色 赤色 黒色 茶色
76	土師質羽釜	包含層	口径 残高 底径 - 03.2 6.0	外蓋 内蓋	ヨコナデ ナデのちハク	灰色 赤色 黒色 茶色
77	土師質羽釜	包含層	口径 残高 底径 - 02.1 5.4	外蓋 内蓋	ヨコナデ ナデ	灰色 赤色 黒色 茶色
78	土師質羽釜	包含層	口径 残高 底径 - 03.4 4.7	外蓋 内蓋	ヨコナデ ナデのちハク	灰色 赤色 黒色 茶色
79	土師質羽釜	包含層	口径 残高 底径 - 04.0 6.9	外蓋 内蓋	ヨコナデ肩下ケスリ ナデ	灰色 赤色 黒色 茶色
80	土師質羽釜	包含層	口径 残高 底径 - 30.5 5.0	外蓋 内蓋	表面割割、肩下ヘラケスリ ハク	灰色 赤色 黒色 茶色
81	須恵質	包含層	口径 残高 底径 - 04.2 6.7	外蓋 内蓋	口縁部ヨコナデ以下様オサエ ナデ	灰色 赤色 黒色 茶色
82	須恵質鉢	包含層	口径 残高 底径 - 04.8 10.9	外蓋 内蓋	ヨコナデ ヨコナデ	灰色 赤色 黒色 茶色
83	瓦質壺	包含層	口径 残高 底径 - 09.2 7.0	外蓋 内蓋	口縁部ヨコナデ以下タタキ 口縁部ヨコナデ以下ナデ	灰色 赤色 黒色 茶色
84	瓦質土罐	包含層	口径 残高 底径 - 05.7 7.8 2.2	外蓋 内蓋	蓋取り 総方向のナデ	灰色 赤色 黒色 茶色
85	土師質土罐	包含層	口径 残高 底径 - 3.1 0.8	外蓋 内蓋	ナデ ナデ	灰色 赤色 黒色 茶色
86	土師質?鉢	包含層	口径 残高 底径 - 04.6 7.5	外蓋 内蓋	表面割割 未焼成	灰色 赤色 黒色 茶色
87	青白磁合子	包含層	口径 残高 底径 - 02.2 0.7	外蓋 内蓋	笠部と笠部のみ無施 無施	灰色 赤色 黒色 茶色
88	青磁皿	包含層	口径 残高 底径 - 2.2 5.8	外蓋 内蓋	笠部一部無施 無施	灰色 赤色 黒色 茶色
89	青磁皿	包含層	口径 残高 底径 - 16.0 2.0	外蓋 内蓋	無施 無施	灰色 赤色 黒色 茶色
90	青磁碗	包含層	口径 残高 底径 - 16.8 6.0	外蓋 内蓋	戸切筋による傷付文 無施	灰色 赤色 黒色 茶色

番号	器種	出土地点	法量 (cm)	技法の特徴	色調・胎土・焼成
91	青磁碗	包含層	口径 17.8 底径 4.0 高さ --	外周 彫刻 内周 彫刻	外周 灰オレンジ色 内周 灰白色
92	白磁碗	包含層	口径 3.0 底径 0.4 高さ --	外周 彫刻 内周 彫刻	胎土 灰白色 表面 灰白色
93	白磁碗	包含層	口径 4.1 底径 -- 高さ --	外周 1. 彫刻 内周 彫刻	外周 灰白色 内周 灰白色
94	白磁碗?	包含層	口径 3.1 底径 -- 高さ --	外周 彫刻 内周 彫刻	外周 灰白色 内周 灰白色
95	常滑壺	包含層	口径 5.5 底径 -- 高さ --	外周 彫刻 内周 彫刻	外周 灰オレンジ色 内周 黄灰色
96	瀬戸壺	包含層	口径 6.8 底径 -- 高さ --	外周 彫刻 内周 ナデ	外周 黄褐色 内周 灰オレンジ色
97	古瀬戸壺	包含層	口径 6.5 底径 -- 高さ --	外周 彫刻 内周 彫刻	外周 明緑灰白 内周 灰白色
98	瀬戸壺	包含層	口径 3.4 底径 -- 高さ --	外周 彫刻 内周 深オシゴのちナデ	外周 灰オレンジ色 内周 灰白色
99	丸瓦	包含層	口径 7.2 底径 -- 高さ --	外周 滑車痕 凸部 滑車痕スリ消し	表面 灰白色 凸部 緑灰色
100	平瓦	包含層	口径 2.1 底径 -- 高さ --	外周 滑車痕 凸部 滑車痕	表面 灰白色 凸部 黄灰色
101	平瓦	包含層	口径 2.4 底径 -- 高さ --	外周 滑車痕 凸部 滑車痕	表面 灰白色 凸部 黄灰色

豊中遺跡 2006—05地点

1	弥生広口長頸壺	包含層	口径 10.99 底径 -- 高さ --	外周 縦方向のヘラミガキ痕、磨練線文 内周 ナデ	外周 浅黄褐色 内周 灰白色
---	---------	-----	----------------------------	-----------------------------	-------------------

豊中遺跡 2006—08地点

1	瓦器碗	包含層	口径 2.9 底径 -- 高さ --	外周 縦方向のヘラミガキ 内周 ヘラミガキ	外周 灰白色 内周 灰白色
2	瓦質土器	包含層	口径 7.6 底径 -- 高さ --	外周 縦方向のヘラミガキ 内周 ハケミ	外周 灰白色 内周 灰白色

豊中遺跡 2006—11地点

1	弥生壺	4T	口径 12.4 底径 15.7 高さ 3.4	外周 口縁部ヨコナデ以下タタキ 内周 口縁部ヨコナデ以下ヘラミガキ	外周 灰白色 内周 灰白色
2	弥生壺	4T	口径 13.8 底径 8.1 高さ --	外周 体部タタキ表面彫刻 内周 表面彫刻	外周 褐色 内周 褐色
3	弥生壺	4T	口径 13.0 底径 16.0 高さ --	外周 口縁部ヨコナデ以下タタキ 内周 表面彫刻	外周 灰白色 内周 灰白色
4	弥生壺	4T	口径 10.0 底径 9.0 高さ --	外周 口縁部タタキ以下タタキ 内周 口縁部タタキ以下ナデ	外周 灰白色 内周 灰白色
5	弥生壺	4T	口径 16.0 底径 16.6 高さ --	外周 口縁部タタキ以下タタキ 内周 体ナデ	外周 灰白色 内周 灰白色
6	弥生壺	4T	口径 4.3 底径 4.1 高さ --	外周 タタキ以下ナデ 内周 ハケ	外周 灰白色 内周 灰白色
7	弥生壺	1T	口径 3.6 底径 3.6 高さ --	外周 タタキ以下ナデ 内周 表面彫刻	外周 灰白色 内周 褐色
8	台付き壺	3T	口径 7.4 底径 3.3 高さ --	外周 体部タタキ表面彫刻 内周 ナデ	外周 灰白色 内周 黄褐色
9	弥生壺	1T	口径 6.3 底径 6.3 高さ --	外周 口縁部タタキ後縁部以下タタキ 内周 体ナデ	外周 浅黄褐色 内周 灰白色
10	古式土師器壺	4T	口径 16.8 底径 16.6 高さ --	外周 口縁部ヨコナデ以下ヘラミガキ 内周 表面彫刻	外周 灰白色 内周 灰白色
11	古式土師器壺	4T	口径 16.8 底径 4.4 高さ --	外周 口縁部タタキ以下ハケ 内周 表面彫刻	外周 浅黄褐色 内周 灰白色
12	複合口縁壺	1T	口径 10.0 底径 10.0 高さ --	外周 口縁部ヨコナデ以下ハケの一部 表面彫刻 内周 ナデ以下ヘラミガキ	外周 灰白色 内周 灰白色
13	広口壺	3T	口径 17.8 底径 2.7 高さ --	外周 体部タタキ 内周 表面彫刻	外周 明緑内 内周 褐色
14	弥生土器	4T	口径 8.1 底径 8.1 高さ --	外周 表面彫刻 内周 表面彫刻	外周 灰白色 内周 灰白色

番号	器種	出土地点	法量 (cm)	技法の特徴	色澤・胎土・焼成
15	弥生高杯	4T	口径 18.1 底径 3.4 高さ 27 厚み 5.0	外周 縄ナデの縁起方向へラミガキ 内周 縄方向へラミガキ	外周 灰白色 内周 赤色 胎土 赤色
16	古式土師器高杯	4T	口径 27 底径 5.0 高さ 13.5 厚み 11.0	外周 ヘラミガキ 内周 ヘラミガキ	外周 赤褐色 内周 灰白色 胎土 赤褐色
17	古式土師器高杯	4T	口径 13.5 底径 11.0 高さ 13.5 厚み 11.0	外周 口縁部ナデ以下へラミガキ 内周 坪部へラミガキ	外周 灰白色 内周 赤褐色 胎土 赤褐色
18	古式土師器高杯	4T	口径 13.5 底径 5.5 高さ 14.0 厚み 4.3	外周 ミガキ 内周 表面割製	外周 灰白色 内周 赤褐色 胎土 赤褐色
19	小型器台	4T	口径 10.0 底径 3.7 高さ 8.5 厚み 4.3	外周 溝状口+キズミ目表面割製 内周 表面割製	外周 赤褐色 内周 赤褐色 胎土 赤褐色
20	器台	4T	口径 10.0 底径 3.7 高さ 8.5 厚み 4.3	外周 溝状口+キズミ目表面割製 内周 表面割製	外周 赤褐色 内周 赤褐色 胎土 赤褐色
21	小型丸底壺	1T	口径 8.0 底径 4.5 高さ 3.0 厚み 5.8	外周 口縁部ナデ縁起方向へラミガキ 内周 口縁部ナデ縁起方向へラミガキ	外周 赤褐色 内周 赤褐色 胎土 赤褐色
22	製塩土器	4T	口径 8.0 底径 4.5 高さ 3.0 厚み 5.8	外周 タタキ一筋ナデ 内周 表面割製	外周 灰白色 内周 赤褐色 胎土 赤褐色
23	瓦器碗	10T	口径 13.5 底径 5.5 高さ 2.4 厚み 2.4	外周 縁ミガキ 内周 ヘラミガキ	外周 赤褐色 内周 赤褐色 胎土 赤褐色
24	瓦器碗	3T	口径 13.5 底径 5.5 高さ 2.4 厚み 2.4	外周 縁ミガキ 内周 ヘラミガキ	外周 赤褐色 内周 赤褐色 胎土 赤褐色
25	瓦器皿	4T	口径 24.4 底径 8.8 高さ 2.4 厚み 2.4	外周 表面割製 内周 表面割製	外周 赤褐色 内周 赤褐色 胎土 赤褐色
26	土師器皿	3T	口径 8.0 底径 4.5 高さ 3.0 厚み 5.8	外周 縁ナデ以下割オサエ 内周 土器割製	外周 赤褐色 内周 赤褐色 胎土 赤褐色
27	土師器皿	4T	口径 14.0 底径 4.2 高さ 8.0 厚み 3.2	外周 口縁部ヨコナデ以下割オサエ 内周 ナデ	外周 赤褐色 内周 赤褐色 胎土 赤褐色
28	土師器皿	4T	口径 16.0 底径 4.0 高さ 3.0 厚み 3.0	外周 口縁部ナデ以下割オサエ 内周 口縁部ナデ以下割オサエ	外周 赤褐色 内周 赤褐色 胎土 赤褐色
29	瓦質羽釜	10T	口径 21.0 底径 7.2 高さ 10.0 厚み 7.2	外周 ヨコナデ、肩下ヘラミガキ 内周 ナデ	外周 赤褐色 内周 赤褐色 胎土 赤褐色
30	瓦質羽釜	10T	口径 22.0 底径 5.3 高さ 10.0 厚み 7.2	外周 口縁部ナデ以下ヘラミガキ 内周 ハケ目	外周 赤褐色 内周 赤褐色 胎土 赤褐色
31	土師質羽釜	10T	口径 22.0 底径 5.8 高さ 10.0 厚み 7.2	外周 表面割製 内周 表面割製	外周 赤褐色 内周 赤褐色 胎土 赤褐色
32	須恵質甕	10T	口径 21.0 底径 4.1 高さ 10.0 厚み 7.2	外周 口縁部ナデ、以下ナデのミガキ 内周 口縁部ナデ、以下ナデ	外周 灰白色 内周 赤褐色 胎土 赤褐色
33	須恵器長頸壺	10T	口径 10.0 底径 3.7 高さ 10.0 厚み 7.2	外周 指輪ヘラミガキ縁起方向ナデ 内周 蓋ナデ	外周 灰白色 内周 赤褐色 胎土 赤褐色
34	常滑	10T	口径 10.0 底径 3.7 高さ 10.0 厚み 7.2	外周 指輪状タタキ 内周 窪ミガキ縁起ナデ	外周 赤褐色 内周 赤褐色 胎土 赤褐色
35	平瓦	3T	縦径 15.1 横径 3.0 厚み 3.0	割製 ナデ 凸面 溝目	外周 赤褐色 内周 赤褐色 胎土 赤褐色
36	平瓦	3T	縦径 16.0 横径 3.0 厚み 3.0	割製 ナデ 凸面 溝目	外周 赤褐色 内周 赤褐色 胎土 赤褐色
37	平瓦	10T	縦径 12.3 横径 3.0 厚み 3.0	割製 溝目 凸面 溝目	外周 赤褐色 内周 赤褐色 胎土 赤褐色
38	平瓦	10T	縦径 13.8 横径 1.7 厚み 1.7	割製 赤目 凸面 溝目	外周 赤褐色 内周 赤褐色 胎土 赤褐色
39	平瓦	10T	縦径 13.2 横径 1.5 厚み 1.5	割製 ナデ 凸面 ナデ	外周 赤褐色 内周 赤褐色 胎土 赤褐色

【参考文献】

財団法人 大阪府文化財調査研究センター 1996 『F出遺跡—都市計画道路常盤浜寺線建設に伴う発掘調査報告書—』(第二分冊)

中世土器研究会 1995 『概説 中世の土器・陶磁器』

発掘調査抄録

ふりがな	いずみおつしまいぞうぶんかざいほくつちょうさがいはう
書名	泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報
副書名	
巻次	25
シリーズ名	泉大津市文化財調査報告
シリーズ番号	41
編著者名	奥野美和
編集機関	泉大津市教育委員会
所在地	〒595-8686 大阪府泉大津市東雲町9番12号
発行年月日	西暦 2007年 3月 31日

ふりがな 所収道跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ° °	東経 ° ° °	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いけうら 池 浦	おおさかふいずみおつし 大阪府泉大津市 いけうらちよう 池浦町4丁目 315番1,315番3 調査番号2006-09	272060		34度	135度	20061108	5.3	鉄骨2階建事務所、 鉄骨平屋工場建設 に伴う事前調査
	50分			41分				
	おおさかふいずみおつし 大阪府泉大津市 いけうらちよう 池浦町5丁目212番7 調査番号2006-10	272060		34度	135度	20061120	3	木造2階建 個人住宅建設に 伴う事前調査
				49分	41分			
とよなか 豊 中	おおさかふいずみおつし 大阪府泉大津市 きたとよなちよう 北豊中町2丁目 988-2の1部 調査番号2006-01	272060		34度	135度	20060201 ～ 20060209	25	鉄骨3階建 個人住宅建設に 伴う事前調査
	49分			42分				
	62秒			39秒				
	おおさかふいずみおつし 大阪府泉大津市 ひがしとよなちよう 東豊中町2丁目 964-19 調査番号2006-06	272060		34度	135度	20060804	4.25	鉄骨4階建 共同住宅建設に 伴う事前調査
49分	42分							
22秒	54秒							
	おおさかふいずみおつし 大阪府泉大津市 きたとよなちよう 北豊中町2丁目 14-5 調査番号2006-08	272060		34度	135度	20060921	3	2階建個人住宅 建設に伴う 事前調査
49分	42分							
58秒	47秒							
	おおさかふいずみおつし 大阪府泉大津市 きたとよなちよう 北豊中町2丁目地内 調査番号2006-11	272060		34度	135度	20061127 ～ 20061219	157.43	下水道管渠 布設工事に伴う 事前調査
49分	42分							
62秒	41秒							
ひちのつば 七ノ坪	おおさかふいずみおつし 大阪府泉大津市 きたとよなちよう 北豊中町1丁目 534番の1の1部 調査番号2006-03	272060		34度	135度	20060602	2.2	鉄骨平屋建 店舗建設に伴う 事前調査
49分	42分							
86秒	41秒							

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いけがみそね 池上曾根	おおさかふいずみおおつし 大阪府泉大津市 もりちよう 森町2丁目228-9 調査番号2006-02	272060		34度 50分 72秒	135度 42分 65秒	20060531	2	鉄骨2階建 個人住宅建設に 伴う事前調査
	おおさかふいずみおおつし 大阪府泉大津市 もりちよう 森町2丁目227-25の 一部 調査番号2006-04	272060		34度 50分 79秒	135度 42分 70秒	20060725	4	木造2階建 個人住宅建設に 伴う事前調査
	おおさかふいずみおおつし 大阪府泉大津市 もりちよう 森町2丁目146番 調査番号2006-05	272060		34度 50分 98秒	135度 42分 56秒	20060727	4	木造2階建 個人住宅建設に 伴う事前調査
いたばら 板原	おおさかふいずみおおつし 大阪府泉大津市 いたばらちよう 板原町4丁目 1096,1097,1098,1099 調査番号2006-07	272060		34度 48分 71秒	135度 41分 40秒	20060821	8	倉庫建設に伴う 事前調査
所収遺跡名		種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
いけうら 池浦	2006-09	集落	弥生 古墳	遺構は検出 されなかった	なし			
	2006-10			遺構は検出 されなかった	なし			
とよなか 豊中	2006-01	包含地 集落跡	縄文 古墳 平安 中世	副立柱建物1棟、 井戸1基、溝1条、 土坑・ピット9基	瓦器輪・皿、瓦質羽釜・鉢・甕、 土師器皿、土師質羽釜・鉢、 中国製磁器、国産陶器、瓦	13世紀の集落を 確認		
	2006-06			遺構は検出 されなかった	なし			
	2006-08			遺構は検出 されなかった	瓦器輪、瓦質土器			
	2006-11			河川跡	弥生甕、弥生高杯、弥生器台、古式 土師器甕、瓦器輪・皿、瓦質羽釜、 土師器皿、土師質羽釜、瓦	弥生後期～13世紀に 亘って河川が広がって いたことを確認		
ひちのつぼ 七ノ坪	2006-03	集落 その他の墓	弥生 古墳	遺構は検出 されなかった	なし			
いけがみそね 池上曾根	2006-02	集落	弥生 古墳 奈良 平安	遺構は検出 されなかった	なし			
	2006-04			遺構は検出 されなかった	なし			
	2006-05			遺構は検出 されなかった	弥生甕			
いたばら 板原	2006-07	集落	縄文 古墳 中世	遺構は検出 されなかった	なし			

泉大津市文化財調査報告41

泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報25

2007(平成19)年3月

発行 泉大津市教育委員会
編集 生涯学習課
泉大津市東雲町9番12号
印刷 大栄印刷株式会社

